

交通Bulletin

2005年 春季号, No.8

発行日：平成17年4月1日
 発行：日本大学理工学部
 社会交通工学科教室
 ☎ 047-469-5239 (教室事務)
 発行責任者：星埜正明 (教室主任)
 編集担当：伊東 孝・長井裕美子・野水雅之
 制作：株式会社 テイクアイ

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION ENGINEERING AND SOCIO-TECHNOLOGY・COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY・NIHON UNIVERSITY

■CONTENTS■

巻頭言 (宮森建樹)	1	助成研究・委託研究	25
平成17年度 研究室紹介	3	平成16年度 各賞受賞者	25
平成16年度 博士論文・修士論文・卒業研究	11	平成16年度 学生の活動	25
平成16年度 教員の研究・活動		平成16年度 就職状況	27
研究業績	14	[TOPICS]	
社会的活動	20	交通Bulletin ISSNの登録、バックナンバーの閲覧	13
学外学術活動	23	新任吉川勝秀教授 平成16年度の活動紹介	26
海外出張	24		

退職にあたって

宮森建樹



昭和41年(1966年)4月に副手として交通工学科に勤務し、この3月に定年により退職することになりました。39年間の長い間、たいした思いも無く無事に勤務することができました。日ごろ不養生をしておりますが、健康については親譲りとあらためて両親に感謝しております。また職場では良き指導者、同僚に恵まれ楽しく仕事できたことを幸せに思っております。

交通ブリテンの今号にスペースを頂きましたので、過去を振り返りつつ、思いついたことを述べさせていただきます。

勤務し始めた当時の思い出：昭和41年は戦後20年を経て経済が著しく発展し、社会基盤の整備として首都圏を含めた高速道路や新幹線が全国的に展開されつつある時期でした。このような社会状況に先立って、昭和36年に交通工学科が創設されたことは“学生生活のしおり”に紹介されておられる先生方の先見の明とご尽力によるものです。また、この年は理工系大学の増募計画が策定された年でもあります。昭和41年当時は戦後の第1次ベビーブーマーが大学入学年齢に達したこと、また経済的な余裕(いざなぎ景気)ができ、大学進学率も上昇しました。現在と比べると夢のような話です。

このような状況の中で理工学部習志野校舎(現船橋校舎)の1～7号館が建設され、大久保校舎(現生産工学部)から交通工学科が移転してまいりました。習志野校舎には交通工学科と精密機械工学科の専門2学科と理工学部と生産工学部の教養が設置されていました。私は7号館の実験準備室に配置され、机を頂きました。同じく副手と学生助手同僚と授業の実験と卒業研究の実験の指導を担当いたしました。その当時、大学の周辺は一面の野原で、自衛隊まで見晴らすことができました。強風に飛ばされたレポートを校門前から自衛隊の付近まで追いかけたという話もありました。また現在の正門付近はクスギ林で、まむしやカブトムシの住処でありました。現在と比べると将に隔世の感で、40年の年月の長さを実感します。

昭和30～40年代は学生が政治や社会にコメントする時代でもありました。昭和43年4月に日本大学の20億円の使途不明金の問題となり、学生がそれに抗議して全学共闘会議を結成してストライキに突入しました。数カ月前には東京大学医学部の自治会が医師法改正に反対してストライキに入っていました。このような大学紛争は全国的な規模で拡大し、その数は100校以上になりました。習志野校舎でも机でバリケードが構築され、全共闘の学生によって封鎖されましたが、学生の態度はそれほど強硬ではなく、話し合いによって4年生の卒業研究はそれによって中断されることはありませんでした。学校側も学生との話し合いを続ける努力をし、また大衆団交なども持たれましたが解決するには至らず、翌年2月に機動隊を導入して全面的に封鎖が解除されました。習志野校舎には機動隊の導入はありませんでした。この年、わが国だけでなく、フランス、ドイツおよびメキシコにおいても大規模な学生のデモやストライキが行なわれました。私は、このような広範に渡る運動は若い学生が既成概念に挑戦し、新しい方向を見出そうと模索している状況を具現化したもので、これらの紛争が別の形で解決されたならば、その後の社会の方向も現在とは異なっていたのではなかろうかと思います。歴史にifが無いことは言うまでもありません。

昭和44年には、1年間米国のプリンストン大学に行っておられた浅川美利先生が戻ってこられました。大学紛争も鎮静化し、第6期生が4年生となりました。浅川先生の発案でこの年の夏期休暇に研究室の卒研究生を引率して、長野県の南小谷で合宿を行ないました。北アルプスの北端に位置する山中で、清浄な空気のなか朝食前にラジオ体操とランニングを行ない、午前中は土質力学の勉強をするなど、楽しく3日間を過ごしました。現在、各研究室でも行なっている合宿の嚆矢でありました。

昭和46年には、新入生のクラス担任をおおせつかりました。1日も早く学生の名前と顔が一致するよう努力しまし

た。このクラスが4年生になった昭和49年は前年の第1次オイルショックの後遺症で戦後初めて経済成長がマイナスになり、狂乱物価の年でありました。

したがって、この年の求人状況は前年より悪く、就職に苦勞した学生も多かったように思われました。しかしながら、この年あたりからスーパーマーケットからの求人が増えてまいりました。当時は、あまりなじみの無い業種でしたので、応募する学生も殆どゼロでしたが、振り返ってみますと、この分野にも積極的に人材を送っておくべきであったと悔やんでおります。

忘れ得ぬ方々：私が勤務したとき学科の主任をされておられた当山道三先生は身長180数cm、体重100kgを越える偉丈夫であられました。先生には交通工学科に勤務する前に学部と大学院でお世話になりました。学部の授業は先生のお書きになった「土質力学」を教科書として名講義でわかり易く、難しい数式の出てくる部分は「諸君はこの部分は分からんでも良い」とおっしゃられ、われわれ数学の苦手な学生を安心させてくださいました。また、講義の合間に語られる人生訓は豪放な反面、細心で他人への思いやりの深い先生のお人柄が如実に表れていた思い出されます。私が常に心がけていることのひとつには、先生のお話に触発されたところがあります。専任となって、教室会議で先生と身近に接する機会が増えました。当時は手弁当持参の教室会議で、先生のご自分で詰められた2重のお弁当が印象的で、また、会議終了後の先生の独演会が楽しくもありました。先生は昭和49年4月にご逝去されました。

私が学科で直接指導していただいた浅川先生にも、学部の時代からお世話になりました。

4年生になり、先生のお勧めに従って外部で卒業研究の指導を受けることになりました。当時は3軸圧縮試験機が日本に導入されて日も浅く、試験方法に詳しい人も居りませんでしたので、なかなか思うようなデータを採ることができないような状態でした。どうにか論文をまとめ、提出1週間前に相棒と二人で先生に見ていただきました。テーマはスラリー状にした粘土を圧密したときの強度の増加についてでしたが、そのスラリーの初期条件について十分に配慮していないことを指摘されました。われわれ、スラリーの初期の水分には配慮したつもりですが、実際にデータとして残しておりませんので何とも答えようが無く、冷や汗をかきながら退室しました。しかしながら、無いデータをでっち上げたり、改竄したりすることもできませんので、1週間後論文をそのまま提出し、何もおっしゃられずに受理していただきました。ご指摘および受理していただきましたときのご様子から、先生は真に教育者であるということを感じました。

交通工学科に勤務してから、学会の研究発表会、調査活動あるいは大学の仕事などで寝食をともにさせていただくことが度々ありました。若いわれわれと話をすることを大変喜ばれ、それに甘えて夜半までビールを飲みながら大学のこと、学会のことおよび研究について先生が情熱的に語られるのをお聞きしました。このようなご性格から、OBが大学を訪ねてきたときも、うれしそうな顔で応対なされておられました。

研究面では、先生は土の界面電氣的性質に関する研究ではわが国の第一人者であると同時に、学会では人望もありいろいろ責任ある仕事を任されておられました。研究熱心である先生から私は勤務した当時から自立して研究するよう予算を頂いて機械を試作するなどを許していただいております。

大変有難いことでありました。研究ではいろいろな失敗や挫折がありましたが、先生には常に暖かく見守っていただきました。ようやく満足できる実験データが得られるようになった頃、早く学位論文にまとめるようにとのお奨めがありました。そのころ先生はすでに体調を崩されており、私のことを気づかわれておられたことを痛感しておりましたが、そのことは私の生来の不精から遅々として進まず、どうにかまとめて提出したのは先生が急逝された日の3日後でした。昭和57年10月のことで、運命的なものを感じております。

川口昌宏先生は私の2歳年上で、私にとって兄のような存在でした。若いときは放課後、われわれ助・副手のいる7号館の地下実験準備室に降りて来られ、麻雀をしたり、また学生とともに広いグラウンドでサッカーボールを蹴飛ばしたりいたしました。先生は仕事（教育・研究）と遊びを区別するとともに教育に情熱を傾けておられました。とくに留年生には心を懸け、とかくバラバラになる彼らを一体化させようと努力されたり、また村や町に祭りがあるのと同様に学生に“晴”の日を楽しんでもらうために、定期試験の後に大食堂でジャズダンスの会を主催されるなど、教員と学生を一体化させることに心を配っておられました。

先生は世界の幸福と個人の幸福を常に考えておられ、またそれを実践する会に入っておられました。そして、恵まれぬ人々あるいは人がより幸福になるよう、カンボジアでの支援活動、また交通遺児への支援、さらにフィリピン工科大学への学術協力活動に積極的に関わっておられました。先生のような情熱と実行力はとても真似すべくもありませんでしたが、お人柄に近くで触れたことが私の心を豊かなものとなりました。先生は11年前の1月に逝去されました。10年ひと昔と言いますが、月日の運行の早さを感じます。

吉田泰治さんは、私が勤務したとき既に研究生のような形で（当時は研究生制度がありませんでした）企業から派遣され、月に2〜3度浅川先生の元に参っておりました。出身校は異なるものの年齢は私より1歳上で、年齢も近いことからすぐ仲良くなり、お付き合いが始まりました。吉田さんには土質工学を勉強するために読むべき専門雑誌の種類を教えてください、また実験手法についてもいろいろ議論し、良い意見を聞かせていただきました。高知工専に教官として赴任されてからも上京の折には我が家に泊まっていただき、親しくお酒を酌み交わしながら徹夜で専門分野のことを語り合いました。吉田さんとの交際のなかで、切磋琢磨しようとする向上心をより高めることができたと思います。長男の私にとっては兄のような存在の方でしたが、残念ながら平成8年に逝去されました。

ここに、心に残る故人のかたがたについて記させていただきましたが、今日このようにして無事仕事を終えることができましたのは、今迄お付き合いいただきました多くの方のおかげであることは申すまでもありません。感謝いたします。



昭和44年12月23日
教室忘年会（熱海にて）
前列左より、川口（故人）、
三浦、浅川（故人）、谷藤（故
人）、山田、横沢の各先生。
後列左より4人目高田先生、
前列右端筆者。

平成17年度 研究室紹介

745・B 号室

交通景観 研究室

天野光一 教授

岸上明子 助手



●研究室の目標

究極の目標

・「美しい国土、住みやすい地域、都市をつくる」

研究室の活動

・基礎的能力の育成、資料の収集、現地の見学

・究極の目標にかかわる研究の実施

研究分野：景観、観光、交通の各分野の研究およびそれらの分野を統合するような研究

●具体的研究テーマ

基本的には学生が興味のあること、やりたいことを提案し議論の上決定する

・景観原論

・景観計画・設計論

・交通空間（駅等の施設も含む）の計画・設計関係

・都市史関係：景観、交通、観光等に視座をおいた都市開発史研究

・観光計画関係

・地域づくり関係

・都市計画関係

2003年度から比較的異色の人材岸上明子助手（東京外

情報工学 研究室

中山晴幸 専任講師



情報工学研究室では、ドライバーの疲労の状態を推定するシステムの開発や、コンピュータ上で歩行者の歩行挙動をシミュレーションするシステム構築、歩行に伴う身体的・精神的負担に関する研究、その歩行負担を考慮した経路案内システムなど、交通に関連する人とコンピュータシステムの相互補完に関係することを研究しています。具体的な研究テーマは次の通りです。

●研究テーマ

1. ドライバーの運転疲労に関する研究

運転に伴う疲労は、輸送の安全性を確保する上で重要です。この研究は運転と疲労との関係を明らかにすると共に、その疲労を検知し、そのデータを利用して安全な運行を確保するシステムの構築を目指しています。

2. 歩行者の歩行挙動解析とそのシミュレーション・システムの構築

駅構内の通路や横断歩道、様々な歩行空間における歩行挙動を分析して、その結果からすでに提案しているシミュレーション・モデルをさらに改良し、そのモデルを利用した歩行空間を評価可能なシミュレーション・システムを構築します。

国語大学卒業後、フィリピン大学都市地域計画専攻にて修士号、博士号を取得）が研究室のメンバーとなったので、アジアの都市にかかわる研究にも力を入れていくつもりである。

●ゼミナールの内容

・専門書、論文の輪読

・現地調査

・実務にかかわる調査など

●研究室に向く人、向かない人

・向く人

景色を見るのが好きな人、本を読むのが好きな人、議論をするのが好きな人、旅行が好きな人、雑学にたけている人、人のために何かできる人

・向かない人

偉くなりたい人、本といえば漫画の人、体系的でなければ気のすまない人、成績が良いのが偉いと思っている人、研究室にくると就職が有利になると思っている人、あいさつのできない人



オペラ通り、ピスタアイストップ景



チューリッヒ、トランジットモール

745・A 号室

3. 歩行に伴う身体的・精神的負担に関する研究とその応用
高齢者にとって階段やスロープにおける歩行は、身体的・精神的負担となります。この負担の程度が、様々な条件によってどのように影響するかを調査・分析し、歩行と負担の関係を明らかにしようとする研究です。また、公共交通機関である鉄道やバスを利用する際に分かり易く、歩き易い経路を案内するシステムの構築を目指します。

4. 自転車の交通安全教育の現状に関する研究

自転車は気軽に利用できる乗り物として、長い間多くの人々に利用されています。しかし、自転車に関する安全教育の場は十分とは言えません。本研究は、自転車の安全教育の現状調査を通して、その問題点を探ります。

5. 携帯電話の使用と注意力低下に関する研究

携帯電話で話しながらあるいはメールをしながら歩行する歩行者が急増しています。携帯電話の使用は利用者の注意力を低下させてしまい、交通事故に結びつく大きな原因になります。

この研究は携帯電話の使用が人々の注意力の低下にどのように関与するのかを、様々な角度から検討します。

走行調査の様子

アイカメラによるドライバーの視線を調査



運転中の生・心理的情報を収録

運輸交通計画 研究室

轟 朝幸 助教授



本研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージする」ことを目標として研究を進めています。キーワードは「交通まちづくり」「インターモダリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。交通まちづくりの“まち”は空間的広がりを含み、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモダリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶といったあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にまた料金などサービス面においてもシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモダリズムを標榜して交通まちづくりを実践するための理念や政策、理論、技法などについて研究を進めます。

●研究テーマ

- ・インターモダリズム…シームレスな交通体系をつくる
- ・公共交通（鉄道、バス、LRTなど）による地域活性化
- ・地域 ITS による公共交通活性化
- ・地域 ITS 推進のプロジェクトマネジメント
- ・インターネットを活用した交通計画調査手法の確立
- ・魅力ある観光地づくりと交通
- ・国際観光流動の動向と観光交通計画（航空輸送やク

- ・ルーズ船による周遊観光
- ・空港の利便性向上による交流活性化
- ・港湾機能の再構築と港湾空間の再生による“みなとまちづくり”
- ・交通関連企業の経営戦略と事業政策戦略
- ・交通施設整備投資効果の総合評価
- ゼミナール・テーマ（予定）
 - ・交通技術師、SPI、TOEIC などの試験対策
 - ・交通計画等に関する文献（英文）の輪読
- 卒業研究、ゼミナール着手条件
 - 原則として交通システム計画、交通需要予測を受講していること。



道路交通 研究室

安井一彦 専任講師



道路交通研究室は、安井一彦専任講師の下、大学院生 5 名、学部 4 年生 14 名、3 年生 12 名の総勢 32 名の研究室です。

ゼミは各学年ごとに週 1 回あります。3 年生は交通工学に関するゼミ、交通技術師に合格するためのゼミ、就職試験対策としての各種講座、4 年生は交通工学に関するゼミと卒業研究のミーティングを行っています。大学院生は、修士論文を進める一方、各学会での活動や民間・官公庁からの様々な共同研究などを行っています。

道路交通研究室では、道路上に起こりうるあらゆる現象について研究を行ってきました。しかし、まだ解明されない現象がたくさんあります。これからは幅広い視野をもって、道路交通の効率・安全に向けて、研究に励んでいきます。研究室の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/ROADTRA/koshiken96.html>

●卒業研究テーマ

- ・踏み切り信号機の高度化に関する研究
- ・クリアランス制御に関する研究
- ・ジレンマ抑止制御に関する研究
- ・押しボタン式信号の高度化に関する研究

- ・高速道路における合流部の交通容量の関係に関する研究
- ・歩車分離信号に関する研究
- ・スキッドマークを用いた交差点危険度評価手法に関する研究
- ゼミナール・テーマ
 - ・交通工学関連知識のマスター
 - ・プレゼンテーションツールの学習
- 卒業研究、ゼミナール着手条件
 - 交通工学に情熱を持つ学生。卒業までに、交通流理論、交通制御は取得してください。
 - また、在学中に交通技術師の資格取得を目標にしています。



交通環境 研究室

藤井敬宏 助教授



研究室では、道路・都市・沿岸域の各種空間を対象とした社会基盤整備の評価や交通環境の改善に向けた対策方法の研究を進めています。環境の視点では、社会基盤整備を行う際の環境の保全や創造を図る方法論や計画論を検討しています。また、交通の視点では、地域の交通改善計画や交通バリアフリー化に向けた対策・評価方法の検討を行っています。

平成 16 年度のゼミナールは、修士課程 2 年が 2 名、1 年が 1 名、卒研究生 14 名、3 年ゼミ生 12 名、研究生 1 名の総勢 30 名が在籍し、毎週行っているゼミナールに加えて、研究室内の卒業研究発表会を年 3 回、卒業研究の各種調査、沖縄へのゼミ旅行、市原市バリアフリーワークショップなどへの参加など、ゼミ活動を行いました。

●卒業研究テーマ（平成 16 年度）

- ①緑化計画の定量的評価に関する研究
- ② NOx・PM 法によるトラック事業者への影響に関する研究
- ③既成市街地に及ぼす一方通行規制の影響に関する研究
- ④市原市におけるバリアフリー基本構想の策定に関する研究
- ⑤環境施設帯における副道部の利用改善策に関する研究
- ⑥船橋市の社会施設における防災対策に関する研究、など

●ゼミナール・テーマ（平成 16 年度）

- ①グループディスカッション
 - ・ビデオ・ニュースを題材とした環境・都市・交通問題についての討論
 - 地域づくり、まちづくり、世界の人口増加と環境対策世界の港、他
 - ・OB を交えた審査会（テーマ：日本人は幸せかどうか、シルバーシートは必要か）
- ②パネル作成
 - ・学生たちで興味ある課題を選出し、パネルの作成および発表会を実施
 - 船橋キャンパスのごみ事情、船橋校舎における自転車駐輪場実態調査、都心ディーゼル車の排出ガス問題
- ③現代用語検定の時事学習問題の実施（3 回程度）



交通バリアフリーのワークショップ



緑に囲まれた環境施設帯の整備

構造工学第二 研究室

柳沼善明 教授

齊藤準平 助手



当研究室は、建設材料の中で多く使用されているコンクリートについて研究しております。

材料面からは、新材料の多機能コンクリートへの有効利用について研究を行っております。

構造面からは、橋梁における構造形式の一つである外ケーブル工法によるプレストレストコンクリート橋梁について、破壊実験と解析から破壊に対する安全性ならびに設計方法を検討しております。解析にはパソコンによる非線形有限要素解析を行っております。また、損傷したコンクリート構造物の補修・補強について、損傷程度の診断技術、耐荷力の推定方法などを研究し、コンクリート構造物の寿命や維持管理について検討を行っております。さらに、交通施設構造物が事故により火災を受けた場合の施設や構造物に与える影響に関する研究も行っております。

ゼミ活動としては、課外活動として現場見学や「君は卵を守るか」コンテストなどを実施しております。昨年度は、9 月に第 2 東名高速道路の橋梁の現場見学（静岡市）とゼミ旅行（焼津）を、12 月に「君は卵を守るか」コンテスト 2004 を行いました。現場見学では、日本で採用実績が少ない新工法であるストラット付きプレストレストコンクリート箱桁橋の施工現場を見学し、貴重な経験とな

りました。

●卒業研究テーマ

- ・新材料を用いた多機能コンクリートの開発
- ・外ケーブル方式 PC 橋梁の破壊に対する安全性
- ・損傷・劣化した鉄筋コンクリート構造物の損傷度診断技術
- ・交通施設構造物に及ぼす火災の影響

●ゼミナール・テーマ

コンクリートに関する随筆やパンフレットを読み、各種建設記録のビデオを観て、コンクリート全般についての知識を豊かにします。さらに、新しい構造形式の橋梁について、構造上の特徴や景観などについて学びます。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし。



平成 16 年度のプレストレストコンクリート橋施工現場見学の集合写真

構造工学第一 研究室

星埜正明 教授



人員構成については、担当教員は星埜です。大学院生は、M2が1名、M1が1名です。卒研究生は3名です。

研究対象は構造工学で、主として、鋼構造ですが、鋼・コンクリート合成構造、コンクリート構造も扱っています。学部科目で言えば、構造力学、鋼構造等が密接な関連を有しています。

また、昨年度は、縦マクラギ（ラダーマクラギ）軌道についての研究も行いました。

●卒業研究テーマ

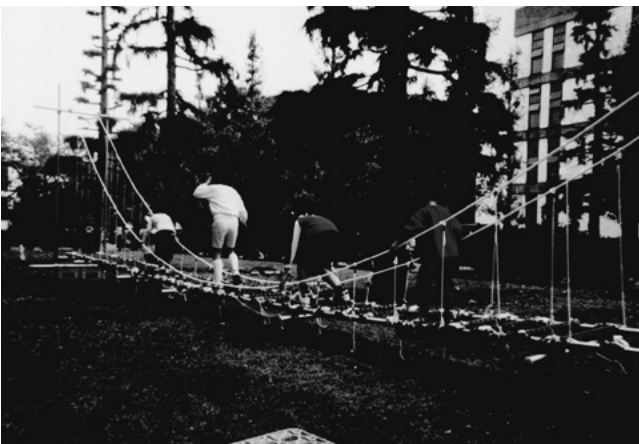
- ・縦マクラギ軌道
- ・ゴムラテックス混入コンクリート複合構造
- ・合成構造橋梁

●ゼミナール・テーマ

ゼミでは、前期には構造力学を中心とした勉強を行う。後期は、習志野祭を挟んで、前半と後半に分かれる。前半では、習志野祭へ向けて展示構造物の製作を行う。最近では、吊橋や斜張橋が多く、来訪した子供達に遊んでもらっている。後半には再び構造力学を中心とした勉強を行う。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし



都市環境計画 研究室

伊東 孝 教授

野水雅之 副手



都市環境計画研究室では、都市計画（まちづくり）、景観工学（けしき）、歴史的遺産（将来への贈りもの）を三本柱にしながら、歴史的まちづくりの実践、産業・土木遺産のデザイン分析と提案などに日々取り組んでいます。昨年からはこれに、都市のミュージアム論を加えました。

◎土木史・近代化遺産

先人の築いてきた優れた産業・土木遺産を見ることや、知られざる産業・土木遺産の発見と評価方法のあり方を検討しています。自治体などの調査はもとより、国の史跡や重要文化財の調査、海外調査もおこなっています。

◎まちづくり

21世紀は、20世紀型のスクラップ・アンド・ビルドの開発手法に代わって、まちのストック—歴史的な蓄積—を活かしたまちづくり（歴史的遺産を活かしたまちづくり、都市のミュージアム論）が求められています。

研究室では、これらの実践の一環として、過去6年間、鞆の浦（広島県福山市）での住民参加型調査（ワークショップ）、また昨年からは「勝関橋をあげる」ことにも取り組んでいます。

◎環境・景観・美

都市空間の快適性や美の追求、あるいは歴史的に育まれ

てきた環境のもつ美しさや優しさなど、さまざまな景観・デザインをみつめ、また考察を加えていきます。

●研究テーマ（卒業研究テーマ／その他）

- ・鞆の浦のまちづくり調査
- ・勝関橋をあげることの調査と運動のバックアップ
- ・都市近郊鉄道（軍用・工業用などの専用線を含む）
- ・近代ダムと発電所の文化財評価のあり方
- ・高速道路についてのオーラル・ヒストリー
- ・都市のミュージアム論
- ・中国・東南アジアの文化財保護と利活用 など

●ゼミナール・テーマ

- ・文献調査と現地調査の訓練と実際
- ・問題解決学の予備練習と発表（Power Point などを利用したプレゼンテーション発表を含む）

●卒業研究、ゼミナールの着手条件

卒業研究を景観分野でおこなう学生は、「景観設計」を受講ないし受講予定であること。



隅田川テラスでの写真展



鞆フェスタ（音楽祭）

交通計画第二 研究室

高田邦道 教授

小早川悟 専任講師



交通計画第二研究室では、従来から交通技術をベースにした交通計画の構築を目指して研究を進めています。具体的には、「地区交通計画」、「物流施設計画」、「都市交通計画」などの方法論を成果として挙げてきました。この中で解き切れていない問題として、「路上駐車 of 路外への排除」、「公共交通システム構築のためのアクセス支援」、「地区物流計画の構築」、「車抑制のための住民判断への情報提供方法論」、「自転車・バリアフリー導入による道路整備計画」、「交通事故対策への科学的アプローチ」等々が挙げられています。これらの問題を、『地球環境を考える交通技術』という視点から解いていこうと考えています。

●研究テーマ

- ・交通事故分析と対策に関する研究
- ・住民参加手法に関する研究
- ・バリアフリーの導入手法に関する研究
- ・駐車マネジメントに関する研究
- ・端末物流コントロールに関する研究
- ・都市と農山漁村の交流に関する研究
- ・自転車走行空間の確保に関する研究
- ・二輪車駐車場に関する研究 など

環境工学 研究室

岩井茂雄 教授

吉永聖仁 副手



舗装などの人工物が地圏と気圏との接点である自然の地盤上に造られると、水の循環などが阻害され地下水の供給が絶たれ地中生態系が変化したり、都市が暑くなるといったヒートアイランド現象が発生するなど、環境変化が生じます。また、自動車から発生する音に目を向けると、沿道住民にとっては不愉快な音（騒音）となります。車が高速走行するにしたがい、タイヤと路面の相互作用によって発生するタイヤ騒音が顕著になり、沿道環境を悪くしています。

そこで、地圏と気圏との接点での物質（水）の循環と熱エネルギーバランスという観点から水を通す舗装（透水性舗装）を取り上げ、水の移動と熱環境の改善に取り組んでいます（写真①）。また、雨水が透水性舗装を通じて、地中に浸透するとき汚染物質が一緒に入ることが想定される



①ヒートアイランド現象を緩和するブロックの開発紹介（2001年11月、東京ビッグサイト）



②「船橋環境フェア」での研究紹介

●ゼミナール・テーマ

前期は、高田先生の講義および専門書の輪読を行う。後期は、高田先生の講義と木戸先生ほかの非常勤講師の先生の講義を含めて行う。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

次の5科目を取得あるいは受講していること。

交通総論・交通現象解析Ⅰ・交通現象解析Ⅱ・ソーシャルロジスティックス・交通マネジメント

〔研究室に係わるプロジェクトの事例〕



鎌ヶ谷市での交差点ハンブ導入実験



練馬区でのポケット・ローディング・システム導入社会実験



大手町・有楽町・丸の内地区での付置義務駐車場制度緩和と自動二輪車対策

ため、汚染物質の移動促進と吸着により、舗装の下地の地盤を浄化する技術の開発も行っています。

一方、タイヤ騒音は透水性舗装によりある程度低減されますが、騒音エネルギーの大きい低周波数の音は残ります。これをうち消すためアクティブノイズコントロールによるタイヤ騒音の低減技術の開発を試みています。これらの成果は、各種のイベントで紹介しています（写真②）。

●研究テーマ（卒業研究テーマ、その他）

- ・タイヤ／路面騒音の低減に関する研究
- ・透水性舗装に関する研究
- ・路面特性と舗装マネジメントに関する研究
- ・土壌中のイオンの移動制御に関する研究
- ・路上雨水に関する研究

●ゼミナール・テーマ

環境項目を設定して測定方法、データ処理方法などを学習した後、自ら測定とデータ処理を行い、環境項目を定量的に把握する方法を習得するようにします。

- ・環境項目・環境質の設定と調査
- ・水質と試験法について
- ・大気質の調査方法について
- ・交通騒音・振動と試験法について
- ・熱環境について

●卒業研究・ゼミナール着手条件

- ・特にありません。環境問題に興味を持った人は誰でも結構です。
- ・興味があるテーマを持っている人については、相談の上、卒業研究として取り上げることにしています。

基礎力学 研究室

下辺 悟 助教授



わが国の国土は急峻な地形が多く、地質構造が脆弱です。しかも、台風の常襲地帯でかつ地震多発地帯でもあります。それゆえ、土砂災害などの自然災害が多いのもうなづけます。こういった地盤災害の防災対策を施すのは言うに及ばず、災害の発生予知を簡便・迅速に、かつリアルタイムでモニタリングする検知技術の確立が切望されています。一方、近年の環境問題意識の高揚とともに天然素材の有効活用がクローズアップされ、生活に身近な諸分野への利用が期待されています。

本研究室では、数年前より ADR 土壌水分センサーなどの各種最新センサーを用いて地盤防災（斜面崩壊、堤防の漏水検知など）の簡便・迅速なリアルタイム・モニタリング検知技術を探求しています。また、珪藻土という優れた多孔質天然素材の諸特性を利用した、土木・環境分野への有効活用（水質・排出ガス浄化など）に関する研究も環境地盤工学の視点からチャレンジしているところです。

- ◎ 研究室の場所 7号館1階7110室
- ◎ 研究室の構成員 下辺 悟 助教授、
大学院生3名（予定）、
卒研究生9名（予定）

水環境システム 研究室

吉川勝秀 教授



本年度より活動を始めた研究室です。河川や湖沼、海などの水に関すること全般、水環境や生態系などの環境、そして国土や都市・地域をシステムとして扱うことについての研究を進める予定です。

●卒業研究テーマ

- ・川のユニバーサルデザイン
- ・水害などでの災害弱者対策
- ・自然共生型流域圏・都市の再生
- ・システムとしての河川堤防
- ・持続可能な水資源政策（国際的視点）
- ・エコロジカルネットワーク
- ・エコサニテーション
- ・多自然型川づくり
- ・河川や水辺を活かした都市再生（国際的視点）
- ・都市における道路と河川のあり方（国際的視点）
- ・河川施設の力学設計
- ・流域における水・物質循環の解析
- ・流域総合治水対策

●ゼミナール

河川などの水・物質循環や生態系に関わること、水に関わる安全を確保する流域治水システム、自然共生型流域圏・

●主な研究テーマ

- ・ADR 土壌水分計の適用性と地盤防災の検知技術への応用
- ・珪藻土の素材特性と土木・環境分野への有効活用
- ・土の実用的分類の構築とその工学的利用

●ゼミナール・テーマ

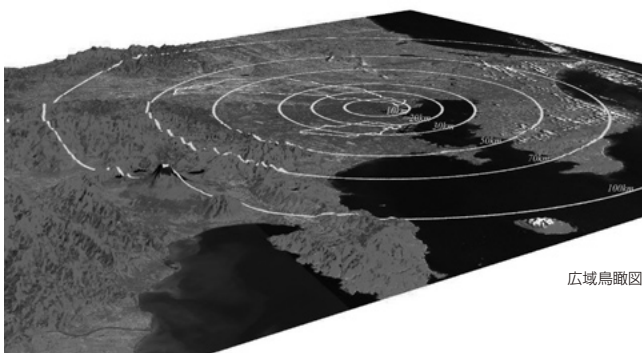
身近な土や他の天然素材を対象に、下記のテーマに沿って資料配付、pptなどで輪読・ディスカッションし、最新の各種センサーを駆使して室内実験などでその実証データを得るという形式でゼミを実施する予定です。

- ◎多孔質天然素材「珪藻土、備長炭、竹炭、麦飯石およびピーナッツの殻」を科学する
- ◎怖い「地盤災害」とその防災対策
- ◎各種土の基礎実験およびモデル実験
- ◎建設現場・研究所見学

●卒業研究、ゼミナール着手条件

主な研究テーマが地盤材料の基礎・基本ならびに地盤防災・環境地盤工学への応用に関するものなので、興味のある方ならどなたでも大歓迎です。

都市の再生、持続可能な水資源政策（国際的視点）、堤防システムの再構築など、水や環境、さらには国土・地域・都市計画と河川などに関することについて、実証的、政策的な議論を行う。日本国内のみならず、アジアを含む国際的な視点からも調査・研究を行う。



広域鳥瞰図

デザイン 研究室

伊澤 岬 教授

江守 央 助手



昨年5月に開催した「第2回卒業設計展+企画展」では「地球環境と土木デザイン」をメインテーマに企画展を中心に開催しました。これは前芝浦工大学長 沖種郎氏とのコラボレーションで、土木と建築、環境との融合を目指しました。具体的な提案は海上都市ヴェネツィアを対象に行いました。これらの企画・運営についてはゼミ生・卒論生、さらに学科の各学年からの有志によって行われました。

本年度の第3回は「社会交通工学科学学生作品展」として、製図、景観設計での優秀作品を展示する予定です。景観・デザイン教育は社会交通工学科の特徴的な教育スタイルであり、「景観法」の施行に伴い、対外的にも大いに注目されているフィールドです。

また、今年度は、福祉まちづくりの実践の一つとして、秋田において、市民とともにコンパクトシティ構想の立案に向けた活動を計画中です。

●卒業研究テーマ

- 設計テーマ：1. 都市再生・自然再生
2. ユニバーサルデザイン（都市、交通、建築）
3. 交通空間のデザイン

- 論文テーマ：1. 交通空間のユニバーサルデザイン
2. 環境の空間評価について

地盤工学 研究室

巻内勝彦 教授

峯岸邦夫 助手



平成16年度は、大学院生3名（修士2年生1名、同1年生2名）、卒研究生（ゼミⅡ生）9名、3年生9名でした。

修士論文、卒業研究は、交通施設に関連する地盤構造物や交通荷重を受ける地盤などを対象として扱ったテーマを中心に新技術や新材料に関する研究を行いました。また、建設発生土の有効利用を念頭に置いた技術についても研究を行っております。建設発生土に軽量化材料である発泡廃ガラスを混合した軽量化地盤材料のジオグリッド補強盛土工法への適用性の検討やコンパクトな機械で軽量盛土を構築可能な現場発泡ウレタンフォームの収縮抑制に関する研究も成果を上げつつあります。また、新規テーマとしまして、盛土中にジオシンセティックス製のドレーン材を敷設することによって土中の有害物質を雨水等と一緒に排出し地盤浄化を試みる研究も始めました。まだまだ基礎的研究の段階ですが、このような技術は社会でのニーズが増えることが予想されます。



今年一年間で得られた研究成果は、地盤工学研究発表会、土木学会全国大会、ジオシンセティックスシ

ー特に地形を中心としてー

3. 観光ユニバーサルデザイン

ー特に世界遺産を中心としてー

4. 世界遺産と災害

5. NPO活動とまちづくり

ーユニバーサルデザインを目指したまちづくり・まちづくりワークショップの実践ー

6. コンパクトシティの実践

ー秋田をケーススタディーとしてー

●ゼミナール・テーマ

- 各種デザインコンペへの参加
- 都市・交通空間ウォッチング
- ワークショップの企画・運営

●卒業研究、ゼミナール着手条件

条件：景観設計・構造デザイン受講者、および受講予定者



中之島新線駅企画デザインコンペ
応募案 大江橋駅CGパース



特別講義において福祉のまちづくり学会千葉大会の準備イベントの一環として行ったバリアチェック(JR千葉駅)

ンポジウムなどにおいて積極的に発表の予定です。

前年度に比べ、大学院生の方が大幅に減少しましたのでややこじんまりしていましたが、女子学生がゼミ長（巻内研初）と言うことで、研究室の行事などにおいても例年とは違った雰囲気でした。

今年度の研究テーマ以下の通りです。

●修士論文・卒業研究テーマ

- ・飽和粘土の繰返し圧密特性
- ・交通荷重を受ける関東ロームの力学特性
- ・ジオテキスタイルドレーン材を用いた地盤浄化
- ・舗装用強化ジオテキスタイルの耐久性評価
- ・現場発泡ウレタンフォームの収縮抑制効果
- ・発泡廃ガラス混合軽量化地盤材の補強盛土材としての適用性
- ・交通荷重を受ける発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の力学特性

●ゼミナール・テーマ

- ①トランスポーターションジオテクノロジー（交通施設の地盤工学）とは？
 - ②地震・大雨等による地盤災害と地盤技術
 - ③地盤構造物への新素材・新材料
 - ④地盤環境技術
 - ⑤性能設計法入門（これからの国際標準設計法）
 - ⑥魅力あるアースデザイン
 - ⑦フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）
- 卒業研究、ゼミナール着手条件
特に設けていない。

221・A 号室

交通システム 研究室

福田 敦 教授



交通システム研究室では、様々な交通問題へシステム工学的アプローチによって取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを、交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価の問題に適用し、実際に問題解決に貢献することを目標としています。

最近、開発に力を入れてきたモデルは、大型車の流入規制やロードプライシングなどの政策が交通走行状態に与える影響を分析するための利用者均衡配分法、交通システムの利用経験が利用者の行動に与える影響を表す共分散構造分析モデルなどです。また、交差点の制御やバスの運行方式などの改善策を総合的に評価するための交通流シミュレーションモデルやプローブカーシステムを活用したモニターシステムの開発などに取り組んでいます。

これらの開発したモデルの適用は、多くの場合、各国の大学の先生や学生あるいは政府関係機関など共同研究という形で進めています。本年も、タイのチュラロンコン大学、コンケン大学、フィリピンのデ・ラサール大学などの研究グループと共同で研究を進めています。卒研究生や大学院生が実際にこれらの国へ行き、現地の学生と協力して調査なども行っています。

●卒業研究テーマ

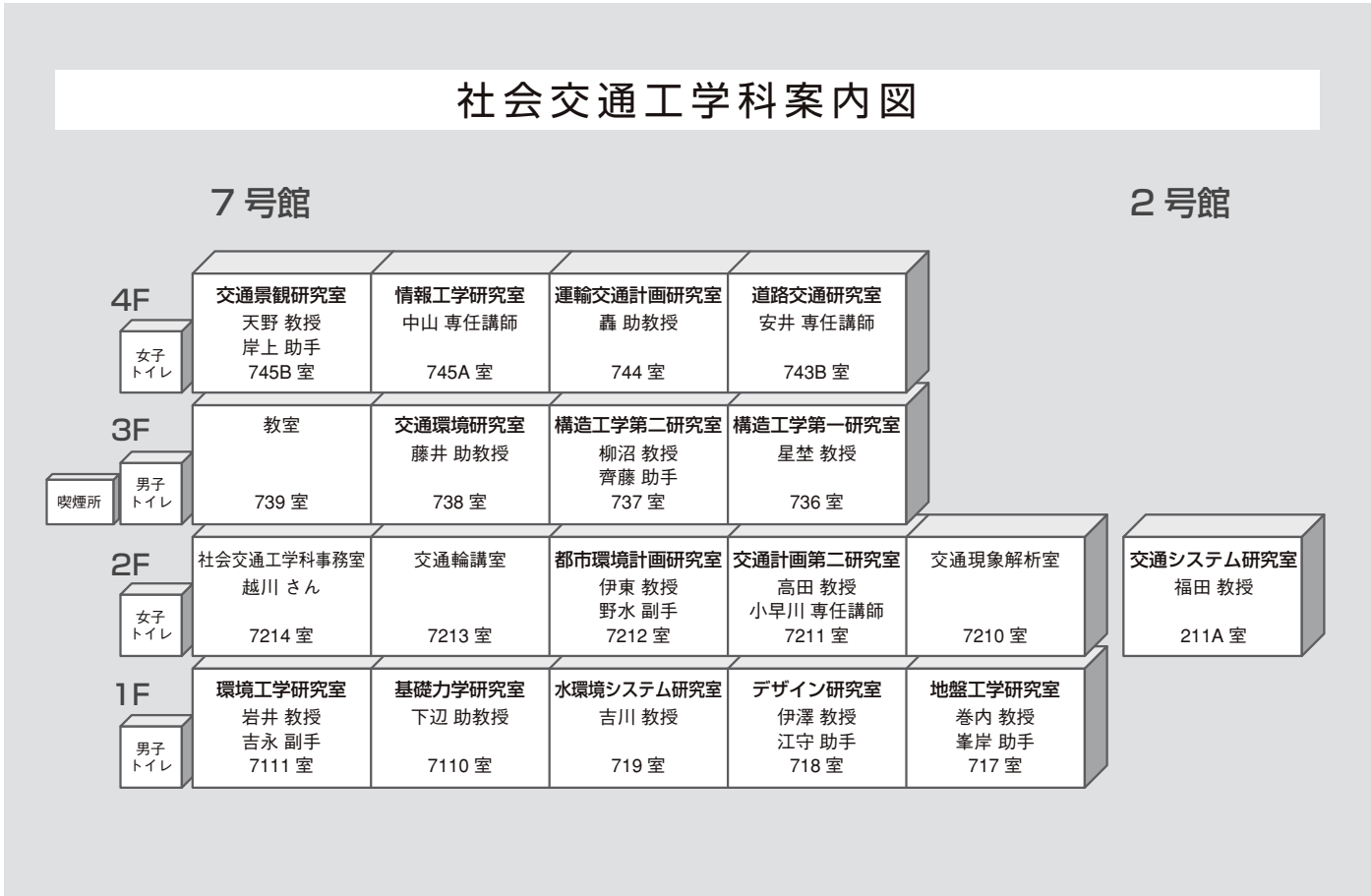
- ・プローブカーシステムを活用したバンコク都市圏における交通状況の把握方法の開発
- ・プローブカーシステムを活用した道路路面性状調査システムの開発
- ・東南アジアにおけるオートバイの利用動向の分析
- ・シミュレーションモデルを使ったコンケン市の総合的な交通管理計画の立案
- ・バス運行改善のための高度な信号制御システムのシミュレーションによる評価
- ・日本へのミチゲーションバンキングシステム導入の可能性の研究
- ・交通分野におけるクリーン開発メカニズム導入の可能性の検討
- ・那覇市におけるトランジットモール導入社会実験の評価

●ゼミナール・テーマ

小グループごとに対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、それを解決するための計画案を作る。計画案作りの過程を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・モデルを活用した計画案の分析方法を学習する。成果については、レポートを作成し、講評会を行う。なお、平成16年度は、サマットプラカン県（タイ）、那覇市などを対象とする予定である。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題の解決に関わる職業につくことを希望している者。数理統計学、オペレーションズリサーチ、交通システム計画、システム工学、交通需要予測を受講することを推奨する。



平成16年度 博士論文・修士論文・卒業研究

博士論文

駐車行動に着目した都市交通管理計画に関する研究

指導：高田邦道 教授

小早川梧

修士論文

川崎臨海部の都市再生構想

―水の道による複合的インフラの再構築―

指導：伊澤 岬 教授

大沼郁俊

多孔質材料の素材特性と水質浄化への利用に関する研究

指導：下辺 悟 助教授

佐久間美紀

狭幅員道路におけるバリアフリー空間確保に関する研究

―千葉県鎌ヶ谷市東初富地区を事例として―

指導：高田邦道 教授

伊藤広忠

信号交差点における自転車の通行環境改善のための現象解析

指導：高田邦道 教授

齊藤祐紀

車抑制を念頭においたポケット・ローディングの配置に関する研究

―東京都練馬区江古田地区を例に―

指導：高田邦道 教授

山岸大輔

東京郊外部におけるP&R用駐車スペースの確保に関する基礎的研究

指導：高田邦道 教授

吉田俊祐

歩行者シミュレーションモデルの構築

指導：高田邦道 教授

石川慎一郎

運転時間と運転疲労との関係について

指導：高田邦道 教授

須藤悠介

運転疲労の検知手法に関する研究

指導：高田邦道 教授

丸山真一郎

気象条件を考慮した交通現象に関する研究

指導：高田邦道 教授、森田諒之 教授

大谷 修

スキッドマークによる交差点危険度評価に関する研究

指導：高田邦道 教授

谷口倫久

歩車分離式信号の効果に関する研究

指導：高田邦道 教授

阿部浩幸

副次的便益を考慮した交通分野におけるクリーン開発メカニズム（CDM）事業の成立可能性に関する研究

指導：大岡 哲 教授、福田 敦 助教授

吾提庫尔 胡加西

四輪車との代替性を考慮した二輪車保有台数推計モデルに関する研究

指導：福田 敦 助教授

岡田祐香

発展途上国における混合交通下のオートバイの蛇行特性に関する研究

―タイ国、バンコク・ハジャイをケーススタディーとして―

指導：福田 敦 助教授

端野良彦

路上駐車観測システムの開発とその有効性の検証

指導：福田 敦 助教授

福留直樹

首都高速道路での交通事故発生時における一般道路を含む総合的な交通影響緩和施策に関する研究

―高島平地区をケーススタディーとして―

指導：福田 敦 助教授

室井寿明

わが国におけるエコロジカルネットワーク構築のための緑地空間評価に関する研究

指導：藤井敬宏 助教授

木下明生

都市部の環境施設帯における副道の整備方法に関する研究

指導：藤井敬宏 助教授

松田泰将

ゴムラテックス混入コンクリート複合構造に関する基礎的研究

指導：星埜正明 教授

千葉慎也

薄肉開断面ばり理論による合成2主桁橋の応力解析

指導：星埜正明 教授

開山義和

発泡廃ガラス混合軽量土の基本的力学特性

指導：巻内勝彦 教授

阿部直樹

円孔拡大による周辺砂地盤の挙動

指導：宮森建樹 教授

長谷川裕史

卒業研究

■ 交通景観研究室（天野光一 教授）……………

歩行者系歩道舗装の歴史

―歩道舗装に用いる材料に関する研究―

指導：五十畑賢一

■ 都市環境計画研究室（伊東 孝 教授）……………

フィルム・コミッションと都市に関する一考察

―横浜市を事例として―

指導：福田隆司

大正・昭和期における文化人の回遊行動

―断腸亭日乗を資料として―

指導：天谷洋士、横井亮太

旧満州の近代化遺産に関する研究

―細菌戦部隊「731」陳列館と周辺の遺構を中心として―

指導：山川太郎

■ デザイン研究室（伊澤 岬 教授）……………

東京・水の回廊構想

―鉄道高架と川の結節拠点を中心に―

指導：平賀千尋

理工系博物館に関する研究

―CST MUSEUM の今後の展開へ向けて―

指導：小野耕二

インターネットを利用した博物館構想 ― Web 3Dによる土木遺産の表現方法―	小野隆之	個別バス利用情報提示型Webアンケートシステムを用いたバス 路線計画手法に関する研究	大西貴佳
「勝岡橋が再び開くこと」の経済評価	片桐隆晴	水上飛行機の利用実態および水上飛行場の設置基準に関する研究	角田 健
■ 環境工学研究室（岩井茂雄 助教授）……………			
路上雨水の汚染実態に関する基礎研究	須藤幸俊	みなとまちづくりにおけるNPOの役割と効果	村川貴紀
透水性舗装による路上雨水の浄化に関する研究 ―浄化機能をもつ路盤およびフィルター材料の開発―	内堀佑一郎	みなとまちづくりを行うNPOの組織運営上の課題	仲田直樹
砂層からの蒸発特性に及ぼす砂の物理的性質の影響について	菊地一平	個人の価値観を考慮した都市評価	古屋陽介
ANCによるタイヤ／路面騒音低減効果に影響する打ち消し音 の周波数変動について	牧迫 大	エキナカ・ビジネスの実態調査	三谷 遙
列車の混雑情報提供による旅客行動の分析	山口一弥	■ 情報工学研究室（中山晴幸 専任講師）……………	
		長時間運転とドライバーの運転疲労との関係について	河田 健、村上佳孝
		運転疲労検知の試み	青木一幸、井上亮二
		歩行に伴う身体的負担について	白石賢司、鈴木裕太
		鉄道駅におけるバス案内情報提供方法に関する基礎的研究	木村友香
		地下鉄駅構内における低負担経路検索システムの構築	井口健太郎
		横断歩道における歩行者の歩行挙動調査	大久保謙、山崎晃平
		交通基盤整備と午前10時到達圏の拡大について	美濃口功、李 誠源
		自転車交通安全教育に関する実態調査	石井厚樹、石井伸一
■ 交通システム研究室（福田 敦 助教授）……………			
		モリアオガエルのSIモデル構築に関する研究	福井真也
		我が国の道路周辺におけるミチゲーションバンクサイト候補地 選定に関する研究	―首都圏中央連絡道路（幸手市区間）を対象として― 山岸亜由美
		ミラーリング法を用いた交通安全教室の効果に関する研究	大芦 淳
		那覇市壺屋やちむん通りにおける交通規制検討への交通シミュ レーション活用の有効性に関する研究	伊藤香苗
		路線バスとの乗換えを考慮した国際通りトランジットバスの運 行路線設定に関する研究	梅原 隼
		都市圏を対象とした交通シミュレーションモデル適用方法の検討	大島良輔
		救急搬送支援システム（M-MOCS）の評価のための交通シミュ レーションモデルの構築	吉田 翔
		バンコクにおける地下鉄利用経験による沿線住民の交通手段に 対する態度変容の分析	堀 博
		アイドリングストップ装置導入のCDM事業としての成立可能 性に関する研究	佐藤慶一【大岡 哲】
		自転車共同利用の運営実態に関する研究	浦畑貴文、大石浩史【轟 朝幸】
■ 交通環境研究室（藤井敬宏 助教授）……………			
		市原市におけるバリアフリー基本構想の策定に関する研究	田面伍朗、八木沢清史

市原市の交通空白地域の改善に関する研究	二河 等、横手貴彦
船橋市の社会福祉施設における防災対策に関する研究	小林 繁、坂口雅洋

下田市既成市街地に及ぼす一方通行規制の影響に関する研究	内田勇介、新保果奈子
現況調査に用いる3次元画像処理用カメラの撮影方法に関する 研究	齋藤由中
GISを用いた緑地空間の定量的把握に関する研究	上野聖規、吉永聖仁
環境施設帯における副道部の利用改善策に関する研究	小田部潤、人見裕介
NOx・PM法がトラック事業者に及ぼす影響に関する研究	景山あずさ

■ 構造工学第一研究室（星埜正明 教授）……………	
3径間連続トラス橋における主構と床組み構造の相互作用	井上卓也、岩井友明
バラストラダー軌道の構造特性に関する解析的研究	大野剛史、落合弘明【井上寛美】
フローティングラダーマクラギのせん断補強に関する解析的研究	澤 俊輔、蒔田 睦【井上寛美】
ゴムラテックス混入コンクリート複合構造に関する基礎的実験	岡島未奈 門脇 祥
ゴムラテックス混入モルタル複合鋼板のFEM解析	帯谷洋介

■ 地盤工学研究室（巻内勝彦 教授）……………	
飽和粘土の繰返し圧密現象に及ぼす圧密圧力周期の影響	小池 光
低応力の繰返し履歴を受けた火山灰質粘性土の力学特性	幸加木豪
ジオドレーン材の水理特性と地盤浄化	石川恵美、江口雄治
ILB舗装におけるジオシンセティックスの耐久性評価	霞 早紀、山内勇気
軽量地盤材料発泡硬質ウレタンフォームの形状変化に及ぼす収 縮抑制材の影響	中村健人
軽量地盤材発泡廃ガラス混合土の力学特性	中川裕介

発泡ビーズ混入軽量盛土材の力学特性	近藤寛泰
-------------------	------

■ 応用力学研究室（宮森建樹 教授）……………	
締固め方法と締固め効果に関する基礎的研究	池田雅規、竹林正敬
セメント安定処理砂のブリーディングの改善と力学特性について	石田将基、谷相理治
アルミニウム棒を用いたモデル土圧実験	小林 隆、中山浩一
円孔拡大による周辺砂地盤の締固め	小林保彦、渡邊恵介
繰り返し荷重下における締め固められた関東ロームの力学特性 について	望月浩平、布戸隆泰

■ 構造工学第二研究室（柳沼善明 教授）……………	
交通施設のコンクリートの圧縮強度に及ぼす火災の影響	吉田宇伸
人工ゼオライトを用いたモルタルの流動性と圧縮強度特性	江尻寛公、松田 篤
人工ゼオライトを用いたモルタルの長期圧縮強度と中性化	小田原克弥
海洋環境下におけるコンクリート構造物の鉄筋腐食に関する研究	信田裕文、大場健太
外ケーブル方式T形PRCはりのせん断挙動	橋本大輝
PC箱桁橋における突起定着部の破壊耐力	長谷川晃久

■ 道路交通研究室（安井一彦 専任講師）……………	
歩者分離式信号の効果に関する研究	野口高弘、矢作巧平
ジレンマ抑止制御導入効果に関する研究	浅香広之、渡辺有紀
歩行者優先信号制御に関する研究	木村純司、高橋和之
踏切連動信号制御の導入効果に関する研究	池田宜史、小澤悦子
首都高速道路における天候と交通現象に関する研究	稲村 淳、川崎真也【森田緯之】
首都高速道路合流部の車線運用に関する研究	吉川裕子、坂本充矢【森田緯之】
スキッドマークによる交差点危険度評価に関する基礎的研究	岡井雄佑、窪田健二

TOPICS
交通Bulletin ISSNの登録、バックナンバーの閲覧
今号から交通BulletinにISSNナンバーが付きました。このISSNとはInternational Standard Serial Number：国際標準逐次刊行物番号というもので、世界中で発行される雑誌、新聞、年鑑といった流動性が高く膨大な刊行量を持つ出版物に対し、個々を的確に識別するために付与された国際的なコード番号です。このコード番号は国際組織ISSN Network（本部：Paris）により管理され、日本では国立国
会図書館に国内窓口となるISSN日本センターを設置しデータの維持管理がなされています。 また、これまで発行されてきました交通Bulletinのバックナンバーが学科ホームページから閲覧が可能になりました。閲覧は「社会交通工学科HP（http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/index.html）」→「お役立ち／交通Bulletin」の順にお進みください。

平成16年度 教員の研究・活動

研究業績

掲載誌・出版元	題目・作品名・書名	教員名など	発表年月
交通景観研究室 （天野光一 教授・岸上明子 助手）			
■ 査読論文			
第24回交通工学研究発表会論文報告集	道路標識の情報認識と景観に与える影響に関する基礎的研究	土屋理行 岸上明子	天野光一 04年11月
デザイン研究室 （伊澤 岬 教授・江守 央 助手）			
■ 口頭発表			
第7回日本福祉のまちづくり学会全国大会	八千代市における交通バリアフリー法基本構想策定後の市民活動について ―市庁舎改修構想立案のワークショップ―	江守 央 伊澤 岬	04年 7月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市・交通計画部会）	福祉のみちづくりのケーススタディ ―秋田市仲小路商店街の街路再生計画―	江守 央 横山 哲	04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市・交通計画部会）	市民による歩行空間ネットワーク案の作成 ―八千代市におけるみちづくりの取り組み―	駒林秀明 江守 央	04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市・交通計画部会）	川崎臨海部の都市再生構想 ―鉄道高架橋の運河橋への再利用を中心に―	大沼郁俊 江守 央	04年11月
■ その他			
京阪電気鉄道、中之島高速鉄道主催 中之島新線駅企画デザインコンペ	「大江橋駅」「渡邊橋駅」「玉江橋駅」〈作品〉	伊澤 岬 大沼郁俊 平賀千尋 広瀬大高	江守 央 駒林秀明 大島淳之 他 04年10月
日本橋まちづくりアイデアコンペ	日本橋再生と水の道・人の道の創出 〈作品〉	伊澤 岬 駒林秀明 他	江守 央 平賀千尋 他 04年 8月
建築設計資料集成 生産・交通 [丸善]	船橋日大前駅 〈掲載〉	伊澤 岬	他 04年 9月
測量 [日本測量協会]	住民参加のバリアフリー・ユニバーサルデザイン ―キャンパスに隣接する千葉県八千代市の活動― 〈掲載〉	伊澤 岬	05年 1月
デザイン研究室企画展	地球環境と土木デザイン展報告書 〈報告書〉	大沼郁俊 伊澤 岬	稲葉 修 江守 央 04年12月
都市環境計画研究室 （伊東 孝 教授）			
■ 著書			
(社)土木学会	万年橋歴史的調査委員会報告書	委員長 著 川西崇行 他著	堀川洋子 04年 3月
(財)国土技術研究センター	東海道道路構造解析調査 ―神奈川県内をケーススタディとして―	委員として参画	04年 3月
■ 口頭発表			
土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 1-7	近世東海道の橋梁について	伊東 孝 伊東孝祐	斉藤 司 04年 7月
土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 73-80	東京・三多摩地域の橋梁の変遷 ―木・石・煉瓦の時代―	紅林章央 伊東 孝	前田研一 04年 7月
土木史研究講演集 Vol. 24, pp. 157-168	わが国におけるコンクリートアーチ橋の発展	紅林章央 伊東 孝	前田研一 04年 7月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM	共通セッション「土木史教育―講義と教材」	伊東 孝	04年 9月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 418-419	旧満州の近代化遺産に関する研究 ―細菌戦部隊「731」陳列館と周辺の遺構を中心として―	山川太郎 鶴岡智史 片桐隆晴 伊東 孝	金 鉄錫 小野隆之 堀川洋子 04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 420-421	軍用鉄道松戸線に関する研究 ―松戸線の建設に着目して―	鶴岡智史	伊東 孝 04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 422-423	住民運動からNPO設立までの過程分析と活動内容に関する研究 ―広島県鞆の浦の特定非営利活動法人（NPO法人）を一例として―	本橋ゆかり 細淵淳二 鶴岡智史	伊東 孝 04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 424-425	「地域住民」を対象としたオーラル・ヒストリー手法に関する研究 ―瀬戸内・弓削町の女性グループを事例として―	堀川洋子	伊東 孝 04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 426-427	瀬戸内・弓削町の実産業と海環境に関する調査報告 ―オーラル・ヒストリー手法を用いて―	後藤主良 伊東 孝	堀川洋子 04年11月

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 428-429	鞆の浦に現存する波止の寸法について ―玉津島波止を事例に―	西塚泰道 伊東 孝	04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 430-431	空家活性化事業に関する研究 ―広島県鞆の浦を事例として―	細淵淳二 本橋ゆかり 鶴岡智史 伊東 孝	山本真希 04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 432-433	観光を意識したまちおこしに関する一考察 ―フィルムコミッションに着目して―	福田隆司 伊東 孝	04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 434-435	「勝関橋が開くこと」の経済評価	片桐隆晴 伊東 孝	04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 436-437	インターネットを活用した博物館構想 ―Web 3Dによる土木遺産の表現方法―	小野隆之 伊東 孝	鶴岡智史 04年11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 448-449	大学博物館の分析 ―CST MUSEUMの今後の展開へ向けて―	小野耕二 伊東 孝	04年11月
■ その他			
土木学会誌 Vol. 89, No. 4, pp. 62-65	イギリス積みと“インダス積み”	伊東 孝	04年 4月
土木学会誌 Vol. 89, No. 4, p. 80	評伝、山に向かいて目を挙ぐ―工学博士・広井勇の生涯	伊東 孝	04年 4月
国づくりと研修 No. 104, p. 56	勝関橋あがる?!	伊東 孝	04年 4月
CE 建設業界 Vol. 54-4, 裏表紙中	三永堰堤―戦時下のモダン・デザイン	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年 4月
CE 建設業界 Vol. 54-5, 裏表紙中	泰阜ダム―機能にマッチするディテール	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年 5月
CE 建設業界 Vol. 54-6, 裏表紙中	上久屋発電所取水施設―神原流排砂装置	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年 6月
CE 建設業界 Vol. 54-7, 裏表紙中	鶴田ダム―ダム湖に浮かぶ発電所	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年 7月
CE 建設業界 Vol. 54-8, 裏表紙中	三成ダム―わが国最初のアーチ・ダム	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年 8月
CE 建設業界 Vol. 54-9, 裏表紙中	荒瀬ダム―ダム撤去時とその後の提案	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年 9月
CE 建設業界 Vol. 54-10, 裏表紙中	黒部ダム―開かれた秘境	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年10月
CE 建設業界 Vol. 54-11, 裏表紙中	田子倉ダム―O. T. M. 3大ダムのひとつ	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年11月
CE 建設業界 Vol. 54-12, 裏表紙中	丸沼ダム―現役の発電ダムで最初の重文	伊東 孝 西山芳一 (写真)	04年12月
日刊建設工業新聞	勝関橋テーマに青空写真展／資料展、17・24日、隅田川テラスで開催	取材記事	04年 7月
中国新聞	鞆の夜 幻想ランタン、手づくり470個港彩る、地元NPOが企画	取材記事	04年 8月
日刊建設工業新聞	勝関橋／青空写真展、石原都知事の発言を追い風に	取材記事	04年 8月
毎日新聞	企画特集 全国こども橋サミット／ふるさと自慢の橋を語ろう／橋博士と意見交換	取材記事	04年 8月
建設通信新聞	土木遺産の保存と利活用：現状と課題	伊東 孝	04年 9月
科学EYES [神奈川県立川崎図書館] Vol. 46, No. 1, pp. 1-6	産業・土木遺産と地域の活性化	伊東 孝	04年10月
日刊建設工業新聞	第18回「土木の日」22世紀へ ―これからの土木を考える生き続ける土木文化財	伊東 孝	04年11月
日刊建設工業新聞	シンポジウム「勝関（かちどき）をあげよう!」、地域が誇る跳ね橋をあげて／元気な下町を	取材記事	04年12月
全国各局	録音風物詩「勝関橋を開こう」	録音取材	04年3~4月放送

環境工学研究室（岩井茂雄 助教授・野水雅之 副手）

■ 査読論文

コンクリート工学 Vol. 42, No. 4, pp. 18-25	たわみ性を有するポーラスコンクリートの疲労特性と舗装構造設計について	渡辺 忠 轟 幸雄	岩井茂雄 04年 4月
The proceedings of GREEN4 : the 4th International Symposium on Geotechnics Related to the Environment, Thomas Telford (印刷中)	Basic Study on Development of Permeable Block Pavement with Purifying Layer for Polluted Rainwater on Road	Shigeo IWAI & Xu Zong XI	04年 6月
Proceedings of the 33rd Congress and Exposition on Noise Control Engineering, N8, pp. 1-7	Study on the Tire/Road Noise Reduction Effects and Durability Characteristics of Fibrous Surface Course Materials	Shigeo IWAI, Tadashi WATANABE & Masato MURAYAMA	04年 8月
土木学会舗装工学論文集 第9巻 pp. 231-239	解析方法の違いを考慮したテクスチャの評価に関する研究	増山幸衛 片山潤之介 草刈憲嗣 岩井茂雄 寺田 剛	04年12月

国づくりと研修 No. 106, AUTUMN, pp. 18 ~ 21	歩道舗装にみる環境・アメニティ 〈解説〉	岩井茂雄	04 年 10 月
舗装 Vol. 39, No. 12, pp. 21-23	国際ラフネス指数 (IRI) について 〈解説〉	岩井茂雄	04 年 12 月

第 49 回地盤工学シンポジウム 論文集
地盤工学会 pp. 39-46

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 576-577	ADR法による土の含水量測定とそのモニタリング	下辺 悟 森 喬男	大南信人 横山 誠	04年11月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM 第3部 pp. 803-804	ADR含水量測定に及ぼす締固め方法の影響	下辺 悟		04年9月
(社)地盤工学会 第39回地盤工学研究発表会講演集 冊子・CD-ROM版 pp. 307-308 地盤工学会	土の誘電率と含水量の関係	下辺 悟		04年7月

財道路経済研究所	p. 227	歩行者用施設整備ガイドブック —米国ワシントン州交通システムへの歩行者の融合策— (PEDESTRIAN FACILITIES GUIDEBOOK —Incorporating Pedestrians into Washington's Transportation System—)	高田邦道 木戸伴雄 西原相五	翻訳監修 高田邦道 他訳	04 年 3 月
自由国民社	pp. 250-270	交通運輸問題用語の解説 (「2005 現代用語の基礎知識」所収)	高田邦道		05 年 1 月
日本交通政策研究会	p. 40	道路空間の配分方法と住民参加方策に関する研究	高田邦道	編著	04 年 11 月
日本交通政策研究会	pp. 4-20	路上駐車対策からみた道路空間の配分方法 (道路空間の配分方法と住民参加方策に関する研究 第 2 章所収)	高田邦道 古郡茂忠 研修生 / 警視庁交通 部)	小早川梧 (2003 年度 研修生 / 警視庁交通 部)	04 年 11 月
日本交通政策研究会	pp. 21-33	ポケット・ローディング・システムの導入と道路空間の有効利用 (道路空間の配分方法と住民参加方策に関する研究 第 3 章所収)	高田邦道 赤松秀彦	小早川梧	04 年 11 月
日本交通政策研究会	pp. 34-39	道路空間の配分方法と住民参加	高田邦道	小早川梧	04 年 11 月

第24回交通工学研究発表会論文報告集 pp. 41-44	市民参加による面的な交通安全対策の検討	南部繁樹 赤羽弘和	葛山順一 高田邦道	04 年 11 月
第24回交通工学研究発表会論文報告集 pp. 45-48	物理的デバイスによる速度抑制の住民・利用者評価 —千葉県鎌ヶ谷市の社会実験から—	鈴木正徳 南部繁樹	葛山順一 高田邦道	04 年 11 月
11th World Congress on ITS 2004, TP86	Possibilities of the Large-Taxi Dial-A-Ride Transit System Utilizing GPS-AVM	Noriyuki TSUKADA & Kunimichi TAKADA		04 年 10 月
日本大学理工学研究所所報 第106号	タクシー交通の活用による公共交通空白地域解消へのアプローチ	塚田悟之	高田邦道	04 年 11 月

土木学会全国大会第 59 回年次学術講演会講演概要集	路側放送による道路交通情報の提供実態	塚田悟之	高田邦道	04 年 9 月
第 48 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集	車抑制を念頭に置いたポケット・ローディングの配置に関する研究 —東京都練馬区江古田地区を例に—	山岸大輔 高田邦道	小早川梧	04 年 11 月
第 48 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集	狭幅員道路でのバリアフリー空間確保についての考察 —千葉県鎌ヶ谷市東初富地区を事例として—	伊藤広忠 高田邦道	小早川梧	04 年 11 月
第 48 回日本大学理工学部学術講演会講演論文集	東京都区部における附置義務駐車制度に関する考察	古賀浩樹 小早川梧	野木 揚 高田邦道	04 年 11 月
第 30 回土木計画学研究発表会（秋大会）	東京郊外鉄道駅周辺の駐車場の空き駐車スペース調査	吉田俊祐	小早川梧	04 年 11 月

君津市	君津市駐車場整備計画策定調査報告書 89ページ（＋付録 46ページ）〈報告書〉	高田邦道 編	04 年 3 月
日本大学理工学部理工学研究所	ITSを考慮した総合輸送支援に関する研究（日本信号受託）	高田邦道 編	04 年 3 月
岡山県神郷町／社国土政策研究会	平成15年度山村都市交流拠点整備計画書	小浪博美 他 高田邦道	04 年 3 月
交通Bulletin No. 5, pp. 1-2	技術環境の変質と「けんか」必要論 —技術立国としての技術持続のために—	高田邦道	04 年 4 月
国際交通安全学会	「参画型社会の交通管理と市民」報告書	久保田尚 高田邦道	04 年 10 月

2004 自動車交通研究 ―環境と政策― pp. 20-21 日本交通政策研究会	道路空間の配分方法と住民参加方策	高田邦道 小早川悟	04 年 10 月
計画・交通研究会会報 pp. 1-2	技術立国ニッポンの技術 (Opinion)	高田邦道	04 年 11 月
高圧ガス Vol. 41, No. 11, p. 41	モーダルシフト〈用語解説〉	高田邦道	04 年 11 月
平成16年度都市計画研修会テキスト (社)日本駐車場工学研究会・日本道路技術研究会 pp. 73-82	附置義務駐車スペースの緩和と市民参加について	高田邦道	04 年 8 月
建設通信新聞	弾性透水舗装材を開発／交差点のハンブに初導入	高田邦道	04 年 12 月
日刊建設工業新聞	安全性など高い評価／弾性透水舗装材 CHIKEN・トースイ／鎌ヶ谷市の交差点改良で採用	高田邦道	04 年 12 月

11th World Congress on ITS Proceedings, CD, 2004	A Proposal of the Evaluation Method by using 'Improvement Approach' for Effective Promotion of Regional ITS	Kenji OKAMURA, Toshio YOSHII, Tomoyuki TODOROKI, Ichiro KOUNO & Yasuhiko KUMAGAI	04 年 10 月
--	---	--	-----------

Proc. of 11th World Congress on ITS Nagoya 2004	DETECTING DRIVER FATIGUE IN EXTENDED DRIVING CONDITION AND HEAVY VEHICLE DRIVERS	Haruyuki NAKAYAMA	04 年 10 月
第24回交通工学研究発表会論文報告集 pp. 257-260	端末交通データの精緻化による鉄道経路選択行動分析の精度向上に関する研究	谷口滋一 中山晴幸 小山 茂 加納英明	04 年 11 月
■ 口頭発表			
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 344-345	運転疲労の検知手法に関する研究	中山晴幸 丸山真一郎 青木一幸 井上亮二	04 年 11 月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 346-347	ドライバーの運転疲労と運転挙動に関する研究	中山晴幸 須藤悠介 河田 健 村上佳孝	04 年 11 月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文 集 pp. 360-361	歩行者の歩道の滞留やL字路の歩行挙動について	中山晴幸 石川慎一郎 大久保謙 山崎晃平	04 年 11 月

運転姿勢モニタリングシステムとそれを応用したドライバー管理システム	中山晴幸	04 年 10 月
特殊セラミック混合不織布およびプラスチックネットの組み合わせによる疲労軽減素材	中山晴幸	04 年 11 月

交通工学 第39巻 4号 pp. 62-71	赤外線センサーを使った路上駐車観測システムの開発とその適用	武田晋一 福田 敦 福留直樹	04年 7月
土木計画学研究・論文集 Vol. 21, No. 4, pp. 175-182	首都圏における鉄道旅客需要の運賃弾力性の計測	金子雄一郎 福田 敦 香田淳一 千脇康信	04年 9月
IATSS RESEARCH Vol. 28, No. 2, pp. 55-67	The Zonal Impact Analysis of Statagic Planning Approach for Land Development Controls : A Case Study of Bangkok	Karin LIMAPORNWANITCH, Kardi TEKNOMO, Kazunori HOKAO & Atsushi FUKUDA	04年 10月
第24回交通工学研究発表会論文報告集 pp. 209-212	バンコクにおける大型商業施設の立地の交通影響評価とその対応の分析	福田 敦 尾崎まり子	04年 11月
Selected Proceedings of the 10th World Conference on Transport Research	The combined trip distribution, modal sprit and traffic assignment equilibrium model to evaluate the transit oriented development policy	Yuichiro KANEKO & Atsushi FUKUDA	04年 12月
国際交通安全学会誌 Vol. 29, No. 3, pp. 6-14	東南アジアの大都市におけるオートバイの現状と課題	福田 敦 中村文彦 竹内健蔵	04年 12月

第29回土木計画学研究発表会（春大会）	小型道路による立体交差導入に関する研究	室井寿明 小田崇徳	福田 敦	04 年 6 月
第29回土木計画学研究発表会（春大会）	沖縄都市モノレールの開業に伴う利用経験による態度変容に関する研究	金城一也 関 陽水	福田 敦	04 年 6 月
第29回土木計画学研究発表会（春大会）	バンコクを対象とするプローブカーによる交通状況の把握に関する研究	石坂哲宏 スラウィット・ナルピティ チャワリット・ティバゴンウォン	福田 敦	04 年 6 月
第29回土木計画学研究発表会（春大会）	路上駐車観測システムの開発とその検証	福留直樹	福田 敦	04 年 6 月

第29回土木計画学研究発表会（春大会）	The Application of Traffic Simulation as a Tool Supporting Traffic Impact Assessment in Developing Countries：A Bangkok Experience	Mariko OZAKI & Atsushi FUKUDA	04 年 6月
第29回土木計画学研究発表会（春大会）	Signal Timing Policy For Transit Priority：A Case Study of R296 Section, Chiba	Thaned SATIENNAM, Atsushi FUKUDA & Toshiaki MUROI	04 年 6月
The 10th World Conference on Transport Research	A Study on Observation of Traffic Situation by Using Probe Vehicle in Bangkok	Tetsuhiro ISHIZAKA, Atsushi FUKUDA, Sorawit NARUPITI, Chawalit TIPAGORNWONG & Tuenjai FUKUDA	04 年 7月
The 10th World Conference on Transport Research	Study on the Introduction of Mitigation Banking System to Japan —Based on the Experiences of Road Project in Minnesota State—	Hideyuki ITO & Atsushi FUKUDA	04 年 7月
The Sixth International Summer Symposium, JSCE	Study on Feasibility of CDM Projects in Transport Sector	Otukr GOJASH & Atsushi FUKUDA	04 年 7月
The Sixth International Summer Symposium, JSCE	Signal Timing Policy for Bus Priority by TRANSYT：A Case Study of R296 Section, Chiba	Thaned SATIENNAM, Atsushi FUKUDA & Toshiaki MUROI	04 年 7月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	沖縄都市モノレールの利用経験による態度変容に関する研究	金城一也 福田 敦 関 陽水	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	Signal Timing Policy for Bus Arterial Routes	Thaned SATIENNAM, Atsushi FUKUDA & Toshiaki MUROI	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	バス乗降感応信号制御導入におけるバス走行改善に関する研究	室井寿明 福田 敦 山口 翼	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	Future Reality of Car Sharing in Developing City on Attitudial Perspectives	Tuenjai FUKUDA, Shigeru KASHIMA & Atsushi FUKUDA	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	リンクパフォーマンスに影響を与える要因の分析	井上洋一 福田 敦	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	我が国の道路周辺における自然環境保全事業に関する実態調査	伊東英幸 福田 敦	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	HEPによる道路周辺に造成されたハビタットの代償ミチゲーションとしての評価に関する研究	藤原真也 福田 敦 伊東英幸	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	開発途上国におけるプローブカーを用いた旅行時間調査の導入に向けた走行特性の把握	石坂哲宏 福田 敦	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集	Study about the Feasibility of Potential CDM Project in the Transportation	Otukr GOJASH & Atsushi FUKUDA	04 年 9月
自動車技術会秋季学術講演会	タイ・バンコク市における自動車排出ガス量の推定（第1報） —排出係数測定のための実走行モードの構築—	前山徳久 舩巴 亮 白川泰樹 竹内義治 福田 敦 近藤美則 小林伸治	04 年 10月
自動車技術会秋季学術講演会	タイ・バンコク市における自動車排出ガス量の推定（第2報） —排出係数の作成—	白川泰樹 舩巴 亮 前山徳久 竹内義治 福田 敦 近藤美則 小林伸治	04 年 10月
11th World Congress on ITS	Study on Traffic information Collection using Probe Vehicle in Developing Countries	Tetsuhiro ISHIZAKA, Atsushi FUKUDA, Sorawit NARUPITI & Chawalit TIPAGORNWONG	04 年 10月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市交通計画部会）	ワークショップを活用しての都市交通問題の検討 —コンケン大学共同ワークショップの経験—	大島良輔 福田 敦 福田トウエンチャイ Thaned SATIENNAM 室井寿明 阿部育佳 臼井良太 岡村 誠 倉八 淳	04 年 11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市交通計画部会）	日光宇都宮道路におけるモリアオガエルの代替産卵池の調査及びSIモデル構築	福井真也 福田 敦 伊東英幸	04 年 11月
第30回土木計画学研究発表会（秋大会）	HEPを基にした代償ミチゲーションと実際に造成された代替産卵池の比較	藤原真也 福田 敦 伊東英幸	04 年 11月
第30回土木計画学研究発表会（秋大会）	千葉県における小学校の交通安全教室の実態に関する研究	長井祐美子 福田 敦	04 年 11月
第30回土木計画学研究発表会（秋大会）	バス乗降感応信号制御導入におけるバス走行改善に関する研究	室井寿明 福田 敦	04 年 11月
conference on the Better Quality Air（BQA）2004、Agra, India	Estimation of Mobile Source CO ₂ Emission in Bangkok Metropolitan Area, Thailand —Development of Driving Cycles and Emission Factor—	Ryo MASUTOMO, Yasuki SHIRAKAWA, Yoshiharu TAKEUCHI, Norihisa MAEYAMA, Atsushi FUKUDA, Shinji KOBAYASHI & Yoshinori KONDO	04 年 12月

84th Annual Meeting of Transportation Research Board	Identifying Potential Market for Carsharing Though Modal Choice Behavior and Socioeconomic Perspectives：Case Study of Bangkok Metropolis	Tuenjai FUKUDA, Atsushi FUKUDA & Michel TODD	05 年 1月
土木学会第28回関東支部技術研究発表会	ミラーリング法による交通安全教室の効果の評価に関する研究	長井裕美子 福田 敦	05 年 3月
土木学会第28回関東支部技術研究発表会	バンコクにおける二輪車・四輪車保有および利用と世帯特性の関連分析	長井裕美子 福田 敦 福田トウエンチャイ 端野良彦	05 年 3月
土木学会第28回関東支部技術研究発表会	緊急車両優先システムの評価のためのシミュレーションモデルの構築	吉田 翔 福田 敦 石坂哲宏	05 年 3月
土木学会第28回関東支部技術研究発表会	バンコクの地下鉄利用経験による沿線住民の態度・行動の変容の分析	堀 博 福田トウエンチャイ 福田 敦	05 年 3月
土木学会第28回関東支部技術研究発表会	バスの乗降時間を考慮したバス乗降感応式信号制御導入に関する研究	矢吹祐輔 福田 敦 室井寿明 Thaned SATIENNAM	05 年 3月
土木学会第28回関東支部技術研究発表会	アイドリングストップ事業のCDMとしての成立可能性に関する研究	佐藤慶一 福田 敦 ウディクル・ゴジャシ	05 年 3月
土木学会第28回関東支部技術研究発表会	道路周辺におけるオープンスペースを活用したミチゲーションバンクサイト候補地の検討	山岸亜由美 伊東英幸 福田 敦	05 年 3月
■ その他			
土木施工 Vol. 45, No. 5, pp. 102-105	視点 交通需要を見据えた立体交差事業を考える	福田 敦	04 年 5月
土木学会誌 89 巻 8 号 p. 97	「この本：東京のインフラストラクチャー」	福田 敦	04 年 8月
交通工学 Vol. 39 増刊号 pp. 4-8	論説 開発援助におけるインフラ整備再考	福田 敦	04 年 11月
国際交通安全学会誌 Vol. 29, No. 3, pp. 4-5	「アジアのオートバイ」特集にあたって	福田 敦	04 年 12月
交通工学 Vol. 40, No. 1, pp. 58-66	報告 那覇市国際通り活性化に向けたトランジットモール社会実験の取り組み	福田 敦	05 年 1月

交通環境研究室（藤井敬宏 助教授）

■ 口頭発表

土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集 第Ⅶ部門 pp. 213-214	生態系ネットワークを考慮した緑地の評価比較に関する基礎的研究	木下明生 藤井敬宏	04 年 9月
土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集 第Ⅳ部門 pp. 401-402	環境施設帯における駐車特性について	山本 彰 竹内裕一 藤井敬宏	04 年 9月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 368-369	ハンディーGPSを用いた旅行時間調査の実施方法に関する研究	藤井敬宏 金子広資	04 年 11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集 pp. 372-373	環境施設帯の整備による沿道環境の改善に関する研究 —副道の利用実態について—	藤井敬宏 松田泰将	04 年 11月

構造工学第一研究室（星埜正明 教授）

■ 査読論文

土木学会第4回道路橋床版シンポジウム講演論文集 pp. 73-78	走行振動荷重を受けるRC床版の動的影響に関する実験研究	阿部 忠 徐 銘謙 星埜正明 木田哲量 澤野利章	04 年 7月
-----------------------------------	-----------------------------	--------------------------	---------

■ 口頭発表

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集	ゴムラテックス混入コンクリート複合構造に関する基礎的研究	千葉慎也 岡島未奈 門脇 祥 阿部和浩 大垣賀津雄 星埜正明	04 年 11月
第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集	ゴムラテックス混入鉄筋コンクリートのひび割れ性状	岡島未奈 千葉慎也 門脇 祥 阿部和浩 大垣賀津雄 星埜正明	04 年 11月

地盤工学研究室（巻内勝彦 教授・峯岸邦夫 助手）

■ 著書

(社)地盤工学会	ジオテクノート13 わかっていますか!! SI単位（単行本）	巻内勝彦	04 年 7月
----------	--------------------------------	------	---------

■ 査読論文

Proceeding of the 3rd Asian Regional Conference on Geosynthetics（Geo Asia 2004），pp. 984-987	Improved Shear Resistance and Toughness of Ribbed Geostaple-Reinforced Soils	Kunio MINEGIHSI & Katsuhiko MAKIUCHI	04 年 6月
ジオシンセティックス論文集 第19巻 pp. 153-160 国際ジオシンセティックス学会日本支部編	ジオテキスタイルを用いた盛土内の土壌浄化に関する基礎的研究	巻内勝彦 峯岸邦夫 今野雄太	04 年 12月
ジオシンセティックス論文集 第19巻 pp. 225-231 国際ジオシンセティックス学会日本支部編	発泡廃ガラス混合軽量盛土材料とジオグリッドの摩擦特性	久保哲也（前田工織） 巻内勝彦 峯岸邦夫	04 年 12月

■ 口頭発表

(社)地盤工学会 第39回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM 発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の強度変形特性 峯岸邦夫 巻内勝彦 04年 7月 葛生智史 阿部直樹

(社)地盤工学会 第39回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM 火山灰質粘性土の力学特性に及ぼす繰返し応力履歴の影響 巻内勝彦 峯岸邦夫 04年 7月 桂 洋介 村田公宏

(社)地盤工学会 第39回地盤工学研究発表会講演集 CD-ROM 発泡廃ガラス混入軽量盛土材料の基本的力学特性 巻内勝彦 峯岸邦夫 04年 7月 久保哲也(前田工織) 根本亮

土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM 一般市民を対象とした土木教育 峯岸邦夫 04年 9月 依田照彦(早稲田大) 他1名

土木学会全国大会第59回年次学術講演会講演概要集 CD-ROM 発泡廃ガラス混合軽量補強土の摩擦特性 久保哲也(前田工織) 04年 9月 巻内勝彦 峯岸邦夫

構造工学第二研究室（柳沼善明 教授・齊藤準平 助手）

■ 査読論文

日本大学理工学研究所所報 第104号 pp. 19-33 超軽量コンクリートを用いたPCはりの力学的挙動 柳沼善明 荒井康治 04年 7月 永海一尚

■ 口頭発表

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 504-505 突起定着部の載荷実験 柳沼善明 04年 11月 長谷川晃久 井口 淳

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 506-507 突起定着部の非線形FEM解析 柳沼善明 井口 淳 04年 11月

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 508-509 RCはりの非線形有限要素解析 柳沼善明 橋本大輝 04年 11月

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 518-519 コンクリートの圧縮強度に及ぼす火災の影響 柳沼善明 吉田宇伸 04年 11月

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 520-521 鉄筋腐食によるコンクリートのひび割れ特性 柳沼善明 大場健太 04年 11月 信田裕文

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 534-535 人工ゼオライトを用いたモルタルの流動性と圧縮強度に及ぼす混和剤の影響 柳沼善明 江尻寛公 04年 11月 小田原克弥 松田 篤 横山英和

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 536-537 人工ゼオライトを用いたモルタルの圧縮強度特性 柳沼善明 松田 篤 04年 11月 江尻寛公 小田原克弥 横山英和

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（土木系部会） pp. 538-539 人工ゼオライトを用いたモルタルの長期圧縮強度と中性化 柳沼善明 04年 11月 小田原克弥 江尻寛公 松田 篤 石橋純一 横山英和

第47回日本大学工学部学術研究報告会講演要旨集（土木工学部会） pp. 205-208 外ケーブル方式を用いたPCはり定着部の破壊実験 齊藤準平 柳沼善明 04年 12月

第47回日本大学工学部学術研究報告会講演要旨集（土木工学部会） pp. 209-212 PC箱桁橋の突起定着部の破壊安全性に関する基礎研究 柳沼善明 井口 淳 04年 12月 長谷川晃久

道路交通研究室（安井一彦 専任講師）

■ 査読論文

第24回交通工学研究発表会論文報告集 pp. 93-96 首都高速道路合流部の交通容量に関する研究 原 靖丘 森田緯之 04年 11月 安井一彦 池田達則

第24回交通工学研究発表会論文報告集 pp. 5-8 踏切形状別交通現象の違いに関する研究 小貝真史 安井一彦 04年 11月

■ 口頭発表

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 338-339 スキッドマーク特性に関する研究 林 一郎 安井一彦 04年 11月

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 340-341 スキッドマークによる交差点危険度評価に関する研究 谷口倫久 安井一彦 04年 11月

第48回日本大学理工学部学術講演会講演論文集（都市・交通計画部会） pp. 342-343 気象条件を考慮した交通現象に関する研究 大谷 修 安井一彦 04年 11月 森田緯之

社会的活動

■ 天野光一 教授

(社)土木学会 景観・デザイン委員会幹事長

富士市 都市景観審議会会長

富士宮市 都市景観審議会会長

国土技術研究センター 景観に配慮した防護柵推進検討委員会委員長

道路環境研究所 道路デザイン指針（仮称）検討委員会

■ 伊澤 岬 教授

八千代市交通バリアフリー基本構想策定協議会会長

印西市 木下貝層・活用検討委員会委員

国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会委員

国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会WG委員

(社)土木学会 景観・デザイン委員会委員

日本福祉のまちづくり学会 第8回全国大会実行副委員長

NPO法人ネット房総 代表理事

八千代バリアフリーフォーラム 副代表

■ 伊東 孝 教授

文部科学省 文化庁文化審議会専門委員

東京都 文化財保護審議会専門委員

埼玉県 文化財保護審議会専門委員

富山県 文化財保護審議会専門委員

東京都 景観審議会専門委員

千代田区 景観まちづくり審議会委員

(社)土木学会 土木史研究委員会委員長

(社)土木学会 土木史研究委員会オーラル・ヒストリー研究小委員会小委員長

(社)土木学会 選奨土木遺産選考委員会委員

(社)土木学会 関東支部選奨土木遺産選考委員会委員長

(社)土木学会 関東支部運営幹事会幹事

(財)江戸東京博物館 運営委員会企画展示専門部会委員

全国町並み保存連盟 常任理事

産業考古学会 理事

(社)日本ナショナル・トラスト 評議員

みんなのチエを集めて勝関橋をあげる会 代表

まちづくり軀工房（NPO）顧問

公益信託 大成建設自然・歴史環境基金運営委員

■ 高田邦道 教授

千葉県東葛飾 鎌ヶ谷大仏交差点住民検討会委員長

白井市 都市計画審議会会長

市川市 交通対策審議会委員

市川市 交通対策審議会・総合交通計画専門部会部会長

(社)国土政策研究会 理事

(財)日本交通管理技術協会 理事

(社)日本駐車場整備推進機構 理事

国土交通省関東運輸局 関東地方交通審議会専門委員

千代田区 駐車場整備計画検討委員会会長

(社)環境情報科学センター 環境情報科学論文集 17 査読委員

(社)国土政策研究会 PFI研究会委員

千葉県 大気環境保全対策専門委員会委員

(財)国際交通安全学会 顧問

(社)国政策研究会 都市・農山漁村研究会副座長

(社)日本都市計画学会 評議員

東京都環境局 交通需要マネジメント検討会議委員

(社)日本駐車場工学研究会 理事

鎌ヶ谷市 交通事故半減プロジェクト推進協議会会長

(財)道路経済研究所 物流施策の交通計画的な視点からの総合評価及び今後のあり方に関する研究会委員長

日本ロジスティックスシステム学会 評議員

日本交通政策研究会 都市交通における二輪車の役割に関する研究主査

大丸有地区地域ルール運営委員会 会長

大丸有地区地域ルール策定協議会 会長

■ 星埜正明 教授

(社)土木学会 鋼構造委員会委員

(社)プレストレストコンクリート技術協会 PC技術規準研究委員会複合橋設計施工規準改訂委員会委員

■ 巻内勝彦 教授

日本学術会議 第5部会社会環境工学研究連絡会地盤環境工学専門委員会委員

経済産業省 日本工業標準調査会（JIS）土木技術専門委員会委員

(社)土木学会 ISO対応特別委員会幹事兼委員

(社)地盤工学会 ISO検討委員会委員長

(社)地盤工学会 ジオシンセティックス国際標準対応委員会委員

(社)地盤工学会 ジオシンセティックス工学委員会委員

(社)地盤工学会 「ジオテクノート13 わかっていますか!! SI単位」編集委員会委員長

国際ジオシンセティックス学会（IGS）日本支部 副支部長

国際ジオシンセティックス学会（IGS）日本支部 2006国際会議実行委員会副委員長

国際ジオシンセティックス学会（IGS）日本支部 表彰委員会委員

(社)電気設備学会 電力用ケーブルの地中埋設の施工方法JIS改正原案作成調査委員会委員長

(社)インターロッキング舗装技術協会 監事

(社)インターロッキング舗装技術協会 関東支部技術委員会委員長

(社)インターロッキング舗装技術協会 舗装技術委員会特別委員

(社)日本規格協会 ブロック舗装用繊維材料の性能評価方法の標準化委員会委員長

(社)日本建材産業協会 ブロック舗装用繊維材料の性能評価標準化ワーキンググループ委員長

(財)土木研究センター 土木工学国際研究交流助成制度選考委員会委員

(財)土木研究センター 多数アンカー式補強土壁工法マニュアル改訂委員会委員長

(財)土木研究センター アンカー式補強土壁工法研究委員会委員長

(財)土木研究センター 箱型擁壁に関する耐震性技術検討委員会委員長

(財)土木研究センター 侵食防止シート検討委員会委員長

(財)土木研究センター 盛土補強用ジオグリッド アダム審査証明委員会委員

(財)土木研究センター 排水性盛土補強ジオテキスタイル ダイヤベース審査証明委員会委員

(財)土木研究センター 盛土補強用ジオグリッド スパイクグリッド審査証明委員会委員

(財)土木研究センター 袋型根固め工法用袋材 E-ユニット審査証明委員会委員

(財)高速道路技術センター 気泡混合軽量土を用いた軽量盛土工法の付帯工に関する検討委員会委員

■ 柳沼善明 教授

(社)土木学会 コンクリート構造物の非線形解析技術研究小委員会委員

(社)土木学会 PC構造物の現状とその対策に関する小委員会委員

(社)土木学会 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会委員

(社)プレストレストコンクリート技術協会 PC箱桁定着部の破壊解析委員会委員	アジア交通学会（EASTS-Japan） 理事
(社)日本コンクリート工学協会関東支部 役員	アジア交通学会 国際學術委員会委員
■ 岩井茂雄 助教授	東京湾岸地域大学間コンソーシアムによる社会人キャリア・アップ運営協議会（TOBAC） 土木・建築産業分野分科会委員
(社)土木学会 表彰委員会委員	(独)国際協力機構 「都市交通」コンテンツ開発支援委員会委員
(社)土木学会 論文賞選考委員会委員	(社)海外運輸協力協会 平成16年度地球環境解決のためのCDM推進事業（国土交通省委託）委員長
(社)土木学会 技術功労賞選考委員会委員長	(社)海外運輸協力協会 運輸部門におけるクリーン開発メカニズム（CDM）のOE育成に関する検討委員会（国土交通省委託）委員長
(社)土木学会 継続教育実施委員会幹事	国土交通省国土技術政策総合研究所道路研究室 道路マネジメント勉強会委員
(社)土木学会 継続教育実施委員会・継続教育実施検討小委員会小委員長	千葉県警察 「21世紀の交通施策を語る会」会長
(社)土木学会 土木教育委員会・生涯教育小委員会委員	八千代市 都市計画審議会委員
(社)土木学会 舗装工学委員会・舗装工学論文集編集小委員会委員	那覇市 トランジットマイル導入委員会幹事会副幹事長
(社)土木学会 役員候補選考委員会委員	■ 藤井敬宏 助教授
(社)土木学会 技術者資格委員会、土木学会資格・CPD合同ワーキング委員	(社)土木学会 技術者資格委員会
(社)土木学会関東支部 商議員	船橋市 都市計画審議会委員
(財)防衛施設技術協会 評議員	習志野市 習志野市交通バリアフリー基本構想策定協議会会長
(社)インターロッキングブロック舗装技術協会 監事	市原市 市原市交通網活性化協議会委員
(社)日本石灰協会 石灰安定処理委員会委員	市原市 市原市交通バリアフリー基本構想策定協議会会長
(株)建設図書 「舗装」編集委員会委員	武蔵村山市 市内循環バス検討協議会会長
■ 下辺 悟 助教授	富士市 富士市公共交通検討委員会委員
人事院 平成17年度国家公務員採用Ⅱ種試験（土木）試験専門委員	(財)道路経済研究所 物流マネジメント検討委員会委員
■ 轟 朝幸 助教授	三重大学生物資源学部共生環境学科 非常勤講師
(社)土木学会 土木計画学研究委員会バス研究小委員会委員	■ 安井一彦 専任講師
(社)土木学会 教育企画委員会若者を惹きつける土木小委員会委員	千葉県警察本部 UTMS推進協議会幹事長
(社)土木学会 公共政策デザイナー教育研究会委員	千葉県警察本部 交通事故調査委員会委員
計画・交通研究会 幹事	新潟県、新潟市 新潟都市圏TDM施策検討委員会副委員長
国土交通省航空局 入札監視委員会委員	警察庁委託 バリアフリー社会における横断歩行者の安全確保に関する調査研究委員会委員
国土交通省東京航空局 入札監視委員会委員	(財)日本交通管理技術協会 歩行者用押ボタン箱及び待時間表示装置の改良に関する調査研究委員会委員
国土交通省国土技術政策総合研究所 航空需要予測手法改善勉強会委員	(財)道路経済研究所 交通流管理の高度化、CO ₂ 削減効果研究会委員
(社)海外運輸協力協会（国土交通省委託） 開発途上国における航空分野安全性向上支援事業検討委員会委員	(社)新交通管理システム協会 交通信号の高度化WG委員
(財)港湾空間高度化環境研究センター（国土交通省委託） 港湾・空港システム研究会委員	(財)高速道路調査会 交通工学研究部会委員
(財)運輸政策研究機構（内閣府沖縄総合事務局委託） 那覇空港航空サービス検討会委員	(財)高速道路調査会 交通運用研究委員会幹事
高知県 道路懇談会委員	(社)交通工学研究会 交通工学査読委員会委員
札幌市 公共交通情報活用推進研究会座長	(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計応用編編集小委員会委員
■ 福田 敦 助教授	(社)交通工学研究会 雑誌交通工学編集委員会委員
(社)土木学会 技術推進機構技術者教育プログラム審査委員会幹事長	(社)交通工学研究会 容量委員会委員
(社)土木学会 資格制度「調査・計画」分野別小委員会委員	(社)交通工学研究会 交通工学ハンドブック改定委員会委員
(社)土木学会 政策マネジメント研究小委員会委員	(社)交通工学研究会 交通工学研究発表会査読委員
(社)交通工学研究会 大都市交通問題対策委員会委員	(社)交通工学研究会 首都高速道路における交通安全対策委員会委員
(社)交通工学研究会 出版委員会新規出版小委員会委員	(社)交通工学研究会 伊豆東海岸渋滞対策研究会委員
(社)交通工学研究会 研究発表会論文審査委員会委員	■ 江守 央 助手
(財)国際交通安全学会 学会誌編集員会委員	ST サービス・交通バリアフリー計画研究小委員会委員
(財)国際交通安全学会 ISSOTアドバイザー	TRANSED2004「第10回高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議」実行委員
(社)海外運輸協力協会 アドバイザー	日本福祉のまちづくり学会 第8回全国大会論文委員
計画・交通研究会 事務局次長	NPO法人ネット房総 監査
コンケン大学 Sustainable Infrastructure Research and Development Centre（SIRDC）アドバイザー	八千代バリアフリーフォーラム 事務局長

■ 小早川悟 助手

(社)交通工学研究会
広報小委員会委員

(社)交通工学研究会
平面交差の計画と設計編集小委員会幹事

(社)交通工学研究会
平面交差の計画と設計計算ソフト小委員会委員長

(社)土木学会土木史委員会
オーラルヒストリー研究小委員会委員

(社)土木学会
土木計画学研究学術小委員会委員

■ 峯岸邦夫 助手

(社)土木学会
技術功労賞選考委員会幹事

(社)土木学会
土木教育委員会幹事

(社)土木学会
土木教育委員会生涯学習小委員会幹事長

学外学術活動

■ 伊澤 岬 教授

講演：「秋田市における仲小路商店街の役割とあるべき姿」／秋田市仲小路振興会
2004. 7. 21

パネリスト：「みんなの医・職・住」／社会福祉法人八千代市社会福祉協議会主催
2004. 9. 5

講演：第1回観光ユニバーサルデザイン「観光バリアフリーと歴史遺産 ―地形に読む 世界遺産と観光都市―」／日本福祉のまちづくり学会
2004. 12. 6

■ 伊東 孝 教授

講演：「近代土木遺産の魅力」／地盤の会
2004. 6. 11

講演：平成15年高度建設技術研修「近代土木遺産、二つの話題」／東京都職員研修所
2004. 6. 14

コーディネーター：第3回全国こども橋サミット／主催・名橋「日本橋」保存会、全国街道交流会議、後援・国土交通省東京国道工事事務所、東京都中央区
2004. 7. 24

講演：近代化遺産活用フォーラム「近代化遺産の価値創造と活用法」／主催・愛媛県、(財)えひめ地域政策研究センター、後援・西予市他
2004. 10. 2

講演：近代の文化遺産の保存修復に関する研究会・大型構造物の保存修復と活用「近代土木遺産の保存と利活用」／東京文化財研究所
2004. 10. 4

パネリスト：両郡橋・電鉄・中ノ口川シンポジウム／主催・シンポジウム実行委員会、後援・新潟県巻地域振興事務所・巻土木事務所、関係2市・4村
2004. 10. 10

講演：「産業遺産と地域活性化」／神奈川県立川崎図書館
2004. 10. 16

講演とパネリスト：ワン・デイ・セミナー「オーラル・ヒストリーの魅力」／土木学会土木史委員会主催
2004. 11. 19

シンポジスト：勝関橋シンポジウム2004／主催・勝関橋をあげる会、隅田川市民交流実行委員会、NPO法人水と緑と光りに輝く中央区研究会、後援・(社)土木学会土木史研究委員会
2004. 12. 10

講演：近代土木遺産シンポジウム「近世・近代遺跡に関する最近の動向」／(社)土木学会東北支部
2004. 12. 11

コーディネーター：東京湾海堡シンポジウム「第一海堡と第二海堡の可能性」／主催・国土交通省関東地方整備局、共催・富津市、後援・千葉県
2004. 12. 18

写真展：青空写真・資料展
勝関橋（隅田川テラス）／勝関橋をあげる会
2004. 7. 17、24

■ 高田邦道 教授

講演：「駐車メカニズム」／船橋東警察署職員研修講演会
2004. 4. 22

(社)地盤工学会
事業部入門書等企画委員会幹事

(社)地盤工学会
「地盤技術者のための衛星リモートセンシング入門」編集委員会幹事

(社)地盤工学会
「ジオテクノート13 わかっていますか!! SI単位」編集委員会委員

(社)地盤工学会
調査部混合地盤材料の環境負荷軽減コスト縮減に関する研究委員会委員

(社)地盤工学会
ジオシンセティックス工学委員会委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部
幹事

国際ジオシンセティックス学会日本支部
行事委員会委員長

国際ジオシンセティックス学会日本支部
表彰委員会委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部
新技術委員会委員

国際ジオシンセティックス学会日本支部
新技術委員会軽量土部会部会長

講演：「地球環境と交通」／第5回日本大学理工学部図書館公開講座「著者を囲む会」
2004. 5. 7

講演：市民参加型交通安全対策支援システムの交通安全対策への適用／船橋市交通安全対策特別研修会
2004. 7. 2

パネリスト：交通政策立案に社会実験は役立つか？ ―交通社会実験の評価と展望―／日本交通政策研究会シンポジウム
2004. 7. 26

講演：附置義務駐車スペースの緩和と市民参加について
平成16年度都市計画研修会／(社)日本駐車場工学研究会・日本道路技術研究会
2004. 8. 26

講演：まちづくりとしてのバリアフリーをどう推進するか／地域科学研究会、コミュニティ交通シリーズ41
2004. 10. 19

講演：附置義務駐車スペースの緩和と住民参加／大丸有駐車環境協議会設立総会特別講演
2004. 11. 8

■ 巻内勝彦 教授

座長：地盤材料 ―改良土・軽量土―、第39回地盤工学研究発表会／(社)地盤工学会
2004. 7. 7

司会：第47回日本大学理工学部学術講演会／日本大学理工学部
2004. 11. 17

副座長：第1セッション・設計法／国際ジオシンセティックス学会日本支部第19回ジオシンセティックスシンポジウム
2004. 12. 2

■ 柳沼善明 教授

司会：第13回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム／(社)プレストレストコンクリート技術協会
2004. 10. 15

■ 岩井茂雄 助教授

講演：「水の循環と森や川のはたらき」／新潟県湯沢町立中学校
2004. 5. 18

講師：「透水性舗装でアメニティ向上」／全国建設研修センター
2004. 6. 2

司会：The 4th International Symposium on Geotechnics Related to the Environment／University of Wolverhampton
2004. 6. 29

■ 福田 敦 助教授

講師：JABEEによる教育プログラム認定・審査のための「土木および土木関連分野」受審校研修会／土木学会
技術推進機構
2004. 5. 25

司会：「排出量取引の現状」／計画交通研究会定例研究会
2004. 5. 26

司会：The 6th International Summer Symposium／土木学会
国際委員会 2004. 7. 31
司会：「駐車行動に着目した都市交通管理計画に関する研究」
／計画交通研究会定例研究会 2004. 7. 23

講演：「the Role of Motorcycle as Urban Transportation Mode
and Its Limitation in Southeast Asian Countries」、the
Workshop on Motorcycle Problem in Southeast Asia／国
際交通安全学会（バンコク） 2003. 9. 7

コメンテータ：第29回土木計画学研究発表会（秋大会）／土木
学会 2004. 11. 21

講 演：「the Role of Motorcycle as Urban Transportation
Mode and Its Limitation in Southeast Asian Countries」、
9th International Student Seminar on Transportation
Research／国際交通安全学会（ハノイ） 2003. 11. 17

講演：「一都市生成のための渋滞解消への取り組み― 乗用車
専用立体交差」第9回土木鋼構造研究シンポジウム／(社)
日本鉄鋼連盟 2005. 3. 1

講演：「Possibility of CDM Project in Transport Sector」、CDM
セミナー（バンコク）／国土交通省・タイ運輸省 2005. 3.
15

■ 藤井敬宏 助教授

講演：「市原市の公共交通の現状と課題について」／市原市民会
館 2004. 12. 9

ファシリテーター：「市原市の交通バリアフリーワークショップ」
／市原市企画部まちづくり課交通政策室／第1回会場 市
原市市民会館、2004. 7. 2／第2回会場 市原市勤労会館
（YOUホール）、2004. 9. 14／第3回会場 市原市市民会館、
2004. 10. 27／第4回会場 市原市市民会館、2004. 11. 24

■ 中山晴幸 専任講師

交通問題コメンテータ：暴走自転車の恐怖／テレビ朝日 スー

パーモーニング（ニュース番組） 2004. 4. 20

交通問題コメンテータ：増え続ける暴走自転車／テレビ朝日
スーパーJチャンネル（ニュース番組） 2004. 7. 12

報道特集・交通問題コメンテーター：自転車の危険性について
／TBS ニュース番組 2004. 9. 12

交通問題コメンテータ：携帯ながら運転の危険性／テレビ朝日
スーパーJチャンネル（ニュース番組） 2004. 11. 24

■ 安井一彦 専任講師

講師：交通技術必携講習会講師（5章 交通管理）／(財)建設物価
調査会 2004. 12. 3

■ 江守 央 助手

講演：「秋田市仲小路商店街のまちづくり・街路づくりの提案」
／秋田市仲小路振興会 2004. 7. 21

総合司会：「みんなの医・職・住」／社会福祉法人八千代市社会
福祉協議会主催 2004. 9. 5

講師：バリアフリーな空間設計と参加型計画手法のあり方
「NPO 活動による市民参加の実際と課題」／(社)建設コンサル
タnts協会 2004. 8. 27

■ 小早川悟 助手

講演：駐車行動に着目した都市交通管理計画／計画・交通研究
会月例研究会 2004. 7. 23

司会：第48回日本大学理工学部学術講演会／日本大学理工学
部 2004. 11. 17

■ 齊藤準平 助手

司会：第48回日本大学理工学部学術講演会／日本大学理工学部
2004. 11

岸上明子 助手 2004 年 3 月 14 日～17 日／景観形成事業推進費に係るシンガポール視察／シンガポール

峯岸邦夫 助手 2004 年 6 月 20 日～24 日／ジオシンセティックス技術に関するアジア地区国際会議（GeoAsia-2004）参加のため／韓国

助成研究・委託研究

助成金名・委託元など（研究期間） 研究課題	教員名
--------------------------	-----

科学研究費補助金（2003. 4～2004. 3）
土木史研究におけるオーラルヒストリー手法の活用とその意義 ―高速道路に焦点をあてて― ……伊東 孝 教授（研究代表者） 他6名

科学研究費補助金（2003. 4～2004. 3）
歴史的都市・村落の環境保全に関する調査研究 ……………伊東 孝 教授 他8名

ORC整備事業（2001. 4～2006. 3）
文化遺産保護・修復プロジェクト実行委員会 ……………伊東 孝 教授 他14名

公益信託 大成建設自然・歴史環境基金（2004. 11～2005. 10）
アジアの近代化遺産研究会 ……………伊東 孝 教授 他3名

(株)日本工業試験所より研究奨励寄付金（2004. 4～2005. 3）
ゴムラテックス複合構造に関する基礎的研究 ……………星埜正明 教授

東京エンジニアリング(株)（2004. 11. 31～2005. 3. 31）
道路の乗り心地度の判定・評価及びその計測手法に関する研究 ……………岩井茂雄 助教授

科学研究費補助金研究（2003. 4～2005. 3）
NPO関与による市民参加型港湾整備事業の進め方について ……………森 朝幸 助教授（研究代表）

(社)日本鉄鋼連盟（2004. 5～9）
小型車専用立体交差導入に関する研究 ……………福田 敦 助教授

(社)日本鉄鋼連盟（2004. 11～2005. 3）
小型車専用立体交差導入に関する研究 ……………福田 敦 助教授

(株)福山コンサルタント（2005. 2～4）
大都市交通問題対策検討に関する調査研究 ……………福田 敦 助教授（研究代表）

(財)国土技術研究センター（2004. 10～2005. 3）
シミュレーションソフトを活用した総合的な道路交通環境改善施策の評価 ……………福田 敦 助教授（研究代表）

(財)国際交通安全学会（2004. 4～2005. 3）
開発途上国におけるオートバイの都市交通手段としての役割と限界に関する研究（Project H637） ……福田 敦 助教授（研究代表） 他5名

文部科学省 学術フロンティア推進事業 環境・防災都市に関する研究（2004. 4. 1～2009. 3. 31）
大都市の環境性能と環境制御に関する研究 ……………藤井敬宏 助教授 他33名

住友電気工業（2004. 11. 1～2005. 3. 31）
交通管理方策に関する研究 ……………安井一彦 専任講師

アイ・トランス・ポート（2004. 5. 1～9. 30）
首都高速道路ボトルネック容量の天候による影響分析 ……………安井一彦 専任講師

平成16年度 各賞受賞者

賞（受賞年月）	教員名
---------	-----

都市公共交通手段としての役割を意図したタクシー交通の運用方策 第18回(社)交通工学会論文賞（2004 月 5 月 25 日）
……………塚田悟之、高田邦道 教授
杵築市制施行50年特別功労者表彰／大分県杵築市（2004 年 11 月 19 日）……………高田邦道 教授

平成16年度 学生の活動

主催者（受賞年月）／賞などの内容	受賞者氏名
------------------	-------

土木学会東北支部主催（2005 年 1 月）／「新時代の橋梁デザイン」応募……………平賀千尋、土川泰明、則本弘明（デザイン研究室）
船橋市（2004 年 6 月 5 日）／船橋環境フェアに出展……………代表者 安宅哲二（環境工学研究室）
(社)土木学会（2004 年 7 月）／the Best Presenter Award on The Sixth International Summer Symposium, JSCE
……………福田トウエンチャイ（交通システム研究室）

(財)国際交通安全学会（2004 年 11 月）／the Best Presenter Award on 10th International Student Seminar on Transport Research
……………ウティクル・ゴジャシ（交通システム研究室）

(財)国際交通安全学会（2004 年 11 月）／the Best Presenter Award on 10th International Student Seminar on Transport Research
……………福田トウエンチャイ（交通システム研究室）

TOPICS

新任吉川勝秀教授　平成 16 年度の活動紹介

研究業績			
掲載誌・出版元	題目・作品名・書名	教員名など	発表年月
■ 著書			
学芸出版	川で実践する―福祉・医療・教育	石川治江　大野重男 小松寛治　編著	04 年 10 月
技報堂	人・川・大地と環境　―自然共生型流域圏・都市に向けて―	単独著作	04 年　2 月
■ 査読論文			
建設マネジメント研究論文集　Vol. 11, p. 293-300	日本における川と国土の変遷および今後モンスーン・アジアで 予想される河川環境に関する問題とその対応について	吉川勝秀　本永良樹	04 年 12 月
Proceedings of the 3rd Civil Engineering Conference in the Asia Regions　pp. 117-120	Measures against Global Warming from the Viewpoint of National Land Management	Katsuhide YOSHIKAWA & Yoshiharu NAMIKAWA	04 年　8 月
Proceedings of the 2nd APHW Conference pp. 311-321	A study on the comprehensive flood damage mitigation in rapidly urbanizing watersheds	Katsuhide YOSHIKAWA, Junji TAKAYANAGI, Hideaki YOKOUCHI, Yuji YAMAMOTO & Yoshiki MOTONAGA	04 年　8 月
Proceedings of the 2nd APHW Conference pp. 296-310	On the Progress of River Restoration and the Future View in Japan and Asia	Katsuhide YOSHIKAWA, Yoshiki MOTONAGA, Hideaki YOKOUCHI & Yuji YAMAMOTO	04 年　8 月
EUROPEAN CENTER for RIVER RESTORATION　pp. 43-55	On the Progress of River Restoration and the Future View in Japan and Asia	Katsuhide YOSHIKAWA	04 年　6 月
■ 口頭発表			
応用生態工学会第 8 回研究発表講演集 p. 187-190	茂漁川における多自然型河川整備事業後の生態系の復活について	野口恭延　荒岡岩雄 吉川勝秀　本永良樹	04 年 10 月
土木学会全国大会第 59 回年次学術講演会講演 概要集　p. 119-120	人口急増地域の治水に関する事後評価的研究	本永良樹　高柳淳二 吉川勝秀　山本有二	04 年　9 月
土木学会全国大会第 59 回年次学術講演会講演 概要集　p. 571-572	日本における河川再生と河川環境ネットワークについて	山本有二　本永良樹 吉川勝秀	04 年　9 月
Proceedings of the 3rd Civil Engineering Conference in the Asia Region　pp. 527-528	Global water cycle variations : study on strategies to adapt water problems in population increase areas	Katsuhide YOSHIKAWA, Toshikazu NAKAMURA, Kohichi FUJITA, Hiroyuki ITO & Junichi YOSHITANI	04 年　8 月
Proceedings of the 3rd Civil Engineering Conference in the Asia Region　pp. 543-545	Watershed/urban regeneration in accord with nature	Katsuhide YOSHIKAWA & Kohichi FUJITA	04 年　8 月

社会的活動

水文・水資源学会　監事	慶應義塾大学大学院　政策メディア研究科教授
茨城県　水環境活用方策研究会委員	名古屋大学大学院　工学研究科講師
国土交通省　子吉川水系河川環境活用推進検討会委員	中央大学大学院　工学研究科講師
災害弱者の支援技術方策に関する検討会　委員（財国土技術研 究センター）	中央大学理工学部　兼任講師
	千葉工業大学大学院　特別講師

学外学術活動

基調講演：第 3 回ヨーロッパ河川再生ネットワーク国際会議（ク ロアチア・ザグレブ）　2004. 5. 17 ～ 19	司会：ワークショップ「市民主導の自然共生型流域圏・都市再 生、エコ・サニテーション」　2004. 3. 9
基調講演およびシンポジウム司会：「川を活かした人と水の交 流フォーラム」／国土交通省　2004. 8. 28	講演：ワークショップ「バンコク首都圏およびチャオプラヤ川 流域の洪水対策」　2004. 3. 1 ～ 5
講演：「水辺からの都市再生シンポジウム」／都市環境研究会 2004. 12. 16	シンポジウムパネラー：子どもフォーラム「子どもが育つ流域 の再生」　2004. 1. 25

平成16 年度 就職状況

平成 16 年度 4 年生担任　安井一彦

平成16年度理工学部社会交通工学科卒業生、および大
学院理工学研究科社会交通工学専攻修了者の就職状況につ
いて、ご報告いたします。平成16年度の学部卒業生129 名、
大学院生は23名でした。学部生では進学20名、次年度公
務員受験希望23名を除く、就職希望者86名中82名が就職し、
内定率は95％でした。大学院修了者では進学 3 名、次年
度公務員 2 名を除く 15 名に対して15名が就職し内定率は
100％でした。

今年度の就職先の特徴として、学部生では公務員合格者
が昨年の 4 名から11名に大幅に増加したことが挙げられ
ます。理工学部および学科独自で実施した公務員講座など
の取り組みの効果が、徐々に現れてきたものと考えられま
す。また、当学科では、学生の就職活動の支援のため、学

科HPに公務員志望者の交流会窓口を設置し、情報交換の
場を設けたり、最新の求人情報をリアルタイムに掲載する
など、様々な就職活動への支援を行っています。

今年度の就職活動の特徴として、各企業が導入し始めた
インターンシップ制度があげられます。大手企業はじめ、
官公庁においてもインターンシップ制度を実施するケース
が増加しており、企業での体験実習が徐々に重要視されて
きています。多くの実施企業では、インターンシップに参
加したかどうかについては、入社試験の判定には全く関係
ないといいながらも、結果として内定者のうちインターン
シップ参加者が大半を占めるというのが実態のようです。
この傾向は、次年度以降ますます大きくなると予想されま
すので、大学としての対応も必要になってきています。

本学科卒業生の就職別就職状況																					平成17年3月25日現在			
業種	卒業年度		S50～		S60～		H7～H8		H9		H10		H11		H12		H13		H14		H15		H16	
	S59	H6	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
公務員	235	215	35	9	22	5	12	7	5	2	9	4	10	2	10	2	4	4	11	5				
公社・公団	20	33	3	2	1	1	0	3	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	1	1				
建設業	547	435	108	6	38	6	26	3	43	0	16	5	27	1	27	2	8	3	12	2				
コンサルタント	236	271	83	16	39	7	17	5	24	8	9	3	7	2	8	2	6	4	6	2				
情報・ソフト	0	60	8	0	6	3	9	1	23	4	34	2	29	1	31	1	14	4	21	1				
運輸	鉄道	42	23	2	4	1	1	0	1	2	2	0	0	2	0	2	0	5	1	4	0			
	物流	72	71	7	0	2	0	8	0	4	2	7	1	17	1	17	1	15	0	13	3			
製造	橋梁・金属	0	11	0	1	1	1	3	0	1	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0			
	材料	0	6	1	0	1	2	6	0	0	0	2	0	3	0	4	0	0	1	3	0			
	交通関係	0	29	7	4	1	0	4	1	4	0	2	4	1	2	1	2	1	2	1	0			
不動産	18	17	5	0	0	0	1	0	2	0	3	0	5	1	5	1	7	2	2	1				
保険・金融	0	7	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0				
学校	20	28	2	2	0	0	0	0	0	0	4	0	8	3	9	3	6	0	1	1				
自営	50	27	3	0	0	0	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
その他	178	232	6	2	9	1	15	2	17	4	15	0	6	0	4	0	13	2	29	4				
進学	80	185	66	4	29	1	25	2	27	3	17	0	21	2	22	2	35	0	20	3				
未定・不明	111	15	8	1	6	1	33	2	31	7	34	3	15	4	10	3	12	4	4	0				
卒業者数	1,609	1,665	344	51	156	29	162	27	190	32	152	25	153	19	153	19	127	27	129	23				

平成16年度 就職先一覧

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
進学	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程	20	0
	日本大学大学院理工学研究科博士後期課程	0	2
	千葉大学大学院博士後期課程	0	1
進学 計		20	3
公務員	国土交通省関東地方整備局	1	0
	法務省（法務教官）	0	1
	防衛施設庁	1	0
	新潟県庁	1	0
	江戸川区	0	1
	船橋市役所	0	1

平成17年3月25日現在			
業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	所沢市役所	0	1
	袖ヶ浦市役所	1	0
	御殿場市役所	1	0
	警視庁警察官	2	1
	茨城県警察官	1	0
	千葉県警察官	1	0
	埼玉県警察官	1	0
公務員 計		11	5
	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	1	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
	(財)東京都新都市建設公社	0	1
公社・公団 計		1	1
建設業	ニッソーサービス	1	0
	前田道路	1	0
	交通建設	2	0
	第一建設工業	1	0
	旭コンクリート工業	1	0
	渡辺建設	1	0
	矢作建設工業	1	0
	小田急建設	1	0
	日本建設クラフト	1	0
	東鉄工業	1	0
	コムシス	1	0
	山崎建設	0	1
	鉄建建設	0	1
建設業 計		12	2
コンサルタント	オギノ	1	0
	オオスミ	1	0
	タカダ	1	0
	エーティプランニング	1	0
	オックスプランニング	1	0
	東洋技研コンサルタント	0	1
	近代設計	0	1
コンサルタント 計		5	2
情報・ソフト	SCMシステムサービス	1	0
	ヤフーBB	1	0
	コンピュータマネージメント	1	0
	インフォテックス	1	0
	ハイテックスシステム	1	0
	夢真	1	0
	東京コンピュータサービス	1	0
	東光オーエーシステム	1	0
	三井造船システム技研	2	0
	メノガイア	1	0
	(株)ソフトウェア	1	0
	フォーカスシステムズ	1	0
	アイエム	1	0
	ITS	1	1
	ワールドロジック	1	0
	エスエルワールド	1	0
	アクセス国際ネットワーク	1	0
	ライテック	1	0
	横河情報システムズ	1	0
	ナイスコミュニティ	1	0
	日本テクノシステム	1	0
情報・ソフト 計		22	1
鉄道	JR西日本	1	0
	JR東日本	3	0
鉄道 計		4	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
物流	AG物流	1	0
	センコー	2	0
	ロジワン (ダイエー物流)	1	0
	丸紅建材リース(株)	1	0
	ヤマト運輸	1	0
	富士物流	1	0
	富士ロジテック	1	0
	福山通運	1	1
	リコーロジスティック	1	0
	谷口運送	1	0
	西濃運輸	1	0
	東芝物流	1	0
	日本通運	0	1
	日本梱包運輸倉庫	0	1
物流 計		13	3
製造	ヤマタネ	1	0
	菅清工業	1	0
	八洲器材	1	0
	京三製作所	1	0
製造 計		4	0
不動産	ミサワホーム東関東	1	0
	すみしん不動産	0	1
不動産 計		1	1
保険・金融	ニッセイ	1	0
	千葉興業銀行	1	0
保険・金融 計		2	0
学校	実践学園中学・高等学校	1	0
	川崎市立川崎総合科学高等学校	0	1
学校 計		1	1
その他	社会福祉法人陽風会	1	0
	ネットヨタ岐阜	1	0
	ソニーサプライチェーンソリューション	1	0
	東京電力	1	0
	ジョイフル	1	0
	アジャクス	1	0
	梅澤忠雄都市計画設計事務所	0	1
	社会人	0	1
	次年度公務員希望	23	2
その他 計		29	4
未定・不明		4	0
総計		129	23

7214 号室

教室事務室

越川 静子

〒 274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1
Tel. 047-469-5239 Fax. 047-469-2581
<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp>

